

〔論 文〕

Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民
(Custumarii)

—— Extenta Manerii de Bokkyng' の分析 ——

能 登 征 夫

目 次

I はじめに

1. 課題

2. 史料

II マナーおよびマナー経営の概要

1. マナーの概要

1) 領主資産

2) 保有地と保有農の種類

3) 保有農民数

2. マナー経営の概要

1) 農業生産の規模

2) 牧畜経営の規模

2) ファムルスの陣容

III 隷属農民の土地保有と義務負担

1. ヴァーゲイト保有農の義務負担

2. ハーフ＝ヴァーゲイト保有農の義務負担

3. フォアランド保有農の義務負担

4. ハーフ＝フォアランド保有農の義務負担

5. コトランド保有農の義務負担

IV おわりに

Appendix : Extenta Manerii de Bokkyng' from *Register K* in CCA

I はじめに

1. 課題

本論文は、カンタベリー大聖堂付属古文書館 (Canterbury Cathedral Archives, CCA) が所蔵する23冊からなる『記録簿』Registers の中の一冊 (Register K) に収められた「Bocking マナーの評価簿」Extenta Manerii de Bokkyng' を基本史料として、中世のカンタベリー司教座聖堂付属修道院 (Canterbury Cathedral Priory, Christ Church) がエセックスに所有していた Bocking マナーの14世紀初頭における土地保有と賦役の詳細を明らかにするものである。筆者はすでに同じエセックスの Middleton マナーに関して同様の実態分析を行っており¹⁾、本論文はその続編とも言うべきものである。

中世イングランドにおける隷属農民の社会経済的状態については、数多くの研究書が農民賦役に関す

る叙述を含んでいることに加え、「マナー評価簿」や「慣習帳」*Custumal*, 「調査簿」*Survey* のテキストおよびそれを分析した著書・論文が農民個々人の詳細な賦役情報を提供しており、その実態はかなりの程度明らかになっている²⁾。

そうした研究史の現段階において筆者が Middleton に続いて Bocking を対象に農民の土地保有と賦役の分析を行うのは、①何よりも、カンタベリ修道院の諸マナーにおける土地保有と賦役の多様性を明らかにする作業を抜きにしては、この修道院の所領経営の全体像を明らかにすることができないと考えるからであり、②14世紀初頭の農民賦役を詳細に記した「マナー評価簿」と、年度ごとの「賦役の遂行と売却」を記した13世紀末葉から14世紀末葉までの間の「マナーの荘役会計報告書」*Compotus servientis manerii* を組み合わせることで³⁾、'賦役の金納化'のプロセスをより詳細に検討できると考えるからである。この意味で、本稿は詳細な賦役の金納化の分析を行うための前段階の作業にもなる。

2. 史料

本稿で基本史料として利用したのは、すでに述べたように、カンタベリ大聖堂付属古文書館 (CCA) が所蔵する23冊の『記録簿』の中の一冊、Register K に収められた「Bocking マナーの評価簿」*Extenta Manerii de Bokkyng'* である⁴⁾。

Register K 所収の「マナー評価簿」は、後述する Register B 所収のそれと同様、写本である。本来であれば原本を分析すべきであるが、未だその存在が確認されていないため、後に指摘するように、誤記や書き落としと思われる個所が散見される写本を利用するほかない。それゆえ本稿は、必ずしも十分とは言えないデータに基づいた実態分析である。

CCA が所蔵する『記録簿』は、当該修道院に関わる種々の文書、例えば、特許状や土地譲渡証書、契約書、諸マナーの地代帳や評価簿、所領をめぐる訴訟の記録、国王令状、修道院長の手紙など、多岐にわたる内容の文書類を集めたもので文字どおりの『記録簿』あるいは『文書集成』である。この中の2冊 (Register B と Register K) に「Bocking マナーの評価簿」が収められているのであるが、本稿では K 所収のそれを基本史料とした。

Register K は '修道院長 Henry の就任以降の記録' *Registrum tempore Henrici prioris usque* という表題を持つ『記録簿』で、その大半は修道院長 Henry of Eastry がその職にあった時期 (1285~1331年) の修道院と修道院領に関する記録である⁵⁾。多数の筆記者の手になる258葉の羊皮紙文書の内容は、諸マナーの地代帳や評価簿、契約書、訴訟記録、国王令状、修道院で働く奉公人の賃金規定に関するものまで様々である⁶⁾。

「Bocking マナーの評価簿」(以下、特別な事情がない限り、単に「評価簿」と記す) は Register K の folio lx-r. から folio lxiii-j-r. までの5葉 (9ページ) にわたって記載された文書である。1309年3月27日の作成日付を有するこの文書は⁷⁾、領主に属するマナーの諸資産 (直営耕地、粉ひき小屋、牧草地、放牧地などの付属財産や権利など) とその貨幣評価額を記述した部分と、保有農個々人の保有資産の内容とその対価である貨幣・現物地代および賦役の内容を詳述した部分からなる。

以上が Register K とそれに収められた「評価簿」についての極めて簡単な内容紹介であるが、ここで、『記録簿』の B と K に収められている「評価簿」のうち、なぜ K 所収のものを史料として選んだかについて説明しておきたい。

Register K 中の「評価簿」は独立した単独の文書として扱われているのに対し、B のそれは、folio Cxv-r. から folio Cxvij-r. の3葉 (5ページ) にわたって [マナーの寄進] *Donacio Manerii de Bokkyngg'* で始まり [牧草地の規模] *Extencio pratorum* で終わる種々の項目が記述された後に登場する⁸⁾。したがって、K に記載された「評価簿」は B に記載された項目の一部分ということになる。

Mar. 2013

Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

「評価簿」に先立って記載された「マナーの寄進」から「牧草地の規模」までの諸項目の中には、「ドームズデイ調査」Domysday Domini Regis, 「Bockingの定額地代」Redditus Assise de Bokkyng' などに加えて「賦役」Operaに関連する項目がいくつも含まれている。このように賦役関連項目を含み、かつ、これ以外の情報も網羅しているため、本来ならRegister B所収の「評価簿」を基本史料として分析すべきであるが、以下の理由からK記載のものをを用いた。すなわち、①記述内容の年代を特定できる「マナーの寄進」と「ドームズデイ調査」以外の項目について、それらがどの年度のものであるかを特定できないこと、②「賦役」に関連する諸項目が「評価簿」に記載された隷農個々人の賦役量を単に集計したものすぎず、本稿の作成にあたっては大きな意味を有さない史料であること、③これが決定的な理由であるが、Bocking以外のマナー分も含めて二つの「評価簿」を比較すると、空白部分や明らかな誤記と思われる部分がBのものにより多く含まれているからである。

このような理由で本稿ではRegister K所収の「評価簿」を基本史料としたのであるが、Bのそれとの相違点は、文字の省略方法の違いを除けば⁹⁾、数値や人名にいくつかの違いが見てとれるだけである。これらについては、CCAの許可を得た上でAppendixとして掲載したKのフルトランスクリプション（単語の省略部分を補って完全な文章にしたもの）の「注」に示してある¹⁰⁾。

補助的な史料として「Bockingマナーの荘役会計報告書」Compotus ×× servientis Manerii de Bokkyng'（字義どおりには「Bockingマナーの荘役××の会計報告書」。以下においては、特別な事情がない限り、単に「報告書」と表記する）を利用した。これは1会計年度分のマナーの経済活動を記したもので、通常、つなぎ合わせた2～3枚の羊皮紙の表面に収支勘定を、裏面に穀物勘定と牧畜勘定、賦役勘定を記載した巻物史料である。これを用いることでマナー経営の分析、ひいては当時の経済状況の分析が可能になるが、本稿では主としてⅡ-2「マナー経営の概要」部分の作成に利用した¹¹⁾。

Ⅱ マナーおよびマナー経営の概要

ここでは、14世紀初頭の領主資産および農民保有地と保有農民について簡潔に述べることでマナーの概要を示し、13世紀第4四半期から1世紀間の穀物生産と牧畜の規模およびファームスの陣容について述べることでマナー経営の概要を示す。収入と支出をめぐるマナーの経営状況については、煩雑になることを避けるために省略する。

1. マナーの概要

BockingはエセックスのHinckfordハンドレッドに属し、Braintreeの真北に位置するマナーである¹²⁾。領主が14世紀初頭に所有していたマナー資産および保有地と保有農について概略すれば以下のようになる。

1) 領主資産

領主がマナーに所有していた資産のうち、本稿の内容に直接かかわる直営耕地と牧草地、放牧地についてのみ記す。

「直営耕地」terra arabilis in dominicoはマナー内の各所に散らばって存在し、その合計面積は510エーカーである。「告知」sciendum quod 欄が設けられており、エーカー当たりの播種量と犁隊carucaについての記述が見られる。単位播種量は、小麦frumentum、ライ麦siligo、オート麦avena、エンドウpisaが2½ブッシェル、ソラマメfabaが3ブッシェル、大麦ordeumが4ブッシェルと定められており、犁隊については、その編成が馬6頭と牛2頭から成ること、1日当たりの作業量が1エーカーであることが明記されている¹³⁾。

〔領主の牧草地〕 *pratum falcabile* は、それぞれが7エーカーの広さをもつ牧草地が *Vppemedwe* と *Gorymedwe* の2カ所に存在し、合わせて14エーカーである¹⁴⁾。

〔領主の放牧地〕 *pastura separabilis* : 小道で区画された放牧地が3カ所に分かれて存在し、その合計は30エーカーである。このうち16エーカーの放牧地は馬 *affrus* と牡牛 *bos* 用に、他の2カ所にある14エーカーのそれは牝牛 *vacca* の放牧用に当てられている。これ以外に直営耕地の傍の土手 *fovea* が放牧地として、時には貸し出されている¹⁵⁾。また、領主は〔共同体の放牧地〕 *pastura communis* に100頭の羊を放牧する権利を有している¹⁶⁾。

以上の諸資産のうち直営耕地の規模についてのみ一言付け加えておきたい。このマナーの510エーカーは、カンタベリ修道院がエセックス管轄区 *Custodia Essexae* (エセックス、サフォーク、ノーフォークの3カウンティで構成) に所有するマナー群のうち、「評価簿」によって耕地面積が確認できる5マナーの中では最大規模のものである¹⁷⁾。

2) 保有地と保有農の種類

14世紀初頭の Bocking には自由農民は存在せず、保有農はすべて隷属農民であった。農民保有地のすべてが賦役を伴う「賦役地」であり、自由農民の保有地が存在していないからである。11世紀末葉のドームズデイ調査部分にも自由農に関する記述がなく¹⁸⁾、自由農が存在しないことがこのマナーの特徴の一つになっている。

もっとも、「評価簿」の後半部分に記載された〔*le Weldelonde* の保有農〕 *Tenentes dil Weldelonde*¹⁹⁾ および〔所領管理責任者と荘宰によって獲得されたマナーに帰属する新地代〕 *Novus Redditus pertinens ad Manerium de acquisitione Custodum et Ballivorum*²⁰⁾ という二つの表題のもとに、貨幣地代のみを支払う保有農を列挙した記述があり、一見したところ、貨幣地代のみを支払う保有農、したがって自由保有農民が存在していたかの印象を与える。しかし、*le Weldelonde* の保有農16名のうち11名が賦役地の保有者であること、また、*Novus Redditus* がリースに出された耕地その他の賃貸料である場合が多いことから²¹⁾、これらが自由保有地であったとは考えられないのである。

それゆえ、このマナーには自由農は存在しないと述べたのであるが、これが正しいとすれば、*le Weldelonde* と *Novus Redditus* の事例は、14世紀初頭までに「賦役の金納化」や「直営地の貸し出し」が進展していたことを示すものである²²⁾。

さて保有地の種類である。「評価簿」に見られる賦役地は、大別して、*virgata terre*, *virgate-land* と *forlondum* / *forlonda*, *outlying land*, それに *cotlondum* / *cotlonda*, *cot-land* の三つであるが、*virgata* と *forlondum* にはそれぞれの半分の規模の保有地である *dimidia virgata* と *dimidium forlondum* があり、全体で五つのタイプに分けられている。以下においてはこれら5種類の賦役地を、*virgata* を「ヴァーゲイト」または「ヴァーゲイト保有地」、*forlondum* を「フォアランド」または「フォアランド保有地」、*cotlondum* を「コトランド」または「コトランド保有地」、*dimidia virgata* を「ハーフ＝ヴァーゲイト」または「ハーフ＝ヴァーゲイト保有地」、*dimidium forlondum* を「ハーフ＝フォアランド」または「ハーフ＝フォアランド保有地」と表現し²³⁾、それらの保有農民を「ヴァーゲイター」または「ヴァーゲイト保有農」、「フォアランダー」または「フォアランド保有農」、「コトランダー」または「コトランド保有農」、「ハーフ＝ヴァーゲイター」または「ハーフ＝ヴァーゲイト保有農」、「ハーフ＝フォアランダー」または「ハーフ＝フォアランド保有農」と呼ぶことにする。

これら5タイプの賦役地保有農民に、先に述べた *le Weldelonde* の保有農と *Novus Redditus* を支払う農民を加えれば、このマナーの「評価簿」に登場する保有農のすべてを網羅することになる。

3) 保有農民数

次に、賦役地保有農民と貨幣地代支払い農民の数を算出し、賦役地保有者の比率を明らかにする²⁴⁾。

Mar. 2013

Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

夫婦による共同保有と人数不明の相続者 heredes による共同保有をそれぞれ1名としてカウントすれば、ヴァーゲイト保有農とハーフ＝ヴァーゲイト保有農がともに31名、フォアランド保有農が28名、ハーフ＝フォアランド保有農が6名、コトランド保有農が9名の合計105名が賦役地の保有者として名前を連ねている。

この中には複数の賦役地に重複して保有地を持つ農民もいれば、同一タイプの賦役地に複数の保有地を持つ農民もいる。こうした複数の耕地を保有する農民の数が17名なので、何れかの賦役地に耕地を保有する農民の数は88名になる。換言すれば、Bocking には賦役負担農民が88名おり、そのうちの17名が複数の賦役を、71名が単一の賦役を負っていたことになる。

貨幣地代のみを支払っていた le Weldelonde の保有農と Novus Redditus 支払い農民の数であるが、先に述べたように le Weldelonde の保有農は16名であり、このうちの11名が賦役地にも耕地を保有していた。Novus Redditus を支払う農民は10名（2度名前が登場する者を1名としてカウント）であるが、この中の2名が賦役地保有者のリストにも名前を連ねている。したがって、貨幣地代のみを支払う保有農は前者の5名と後者の8名の合計13名になる。

以上から、「評価簿」に登場する Bocking の保有農民の総数が101名で、その大半（87.1%）が賦役を条件に耕地を保有していたことになる。

2. マナー経営の概要

ここでは「報告書」から得られたデータを用いてマナー経営の概要を簡潔に記す²⁵⁾。

1) 農業生産の規模

直営耕地で栽培された作物は、小麦、ライ麦、大麦、オート麦、小麦とライ麦の混合麦であるマズリン mixtilium、大麦とオート麦を混合したドレッジ dragetum の7種類の穀類と、エンドウ、カラスノ

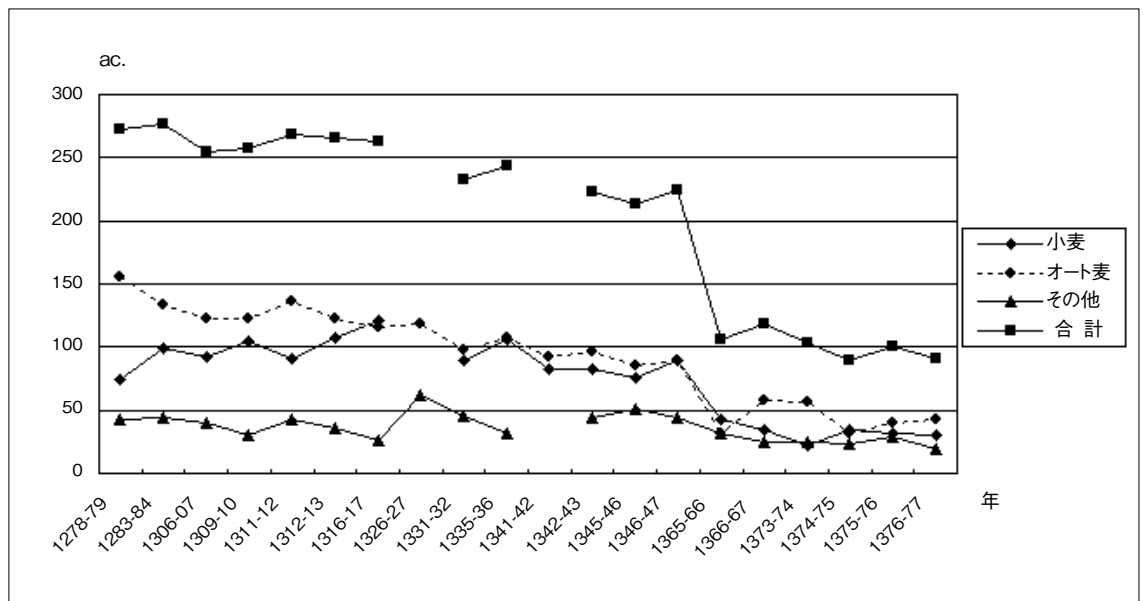


図1 播種面積

[出所] Canterbury Cathedral Archives が所蔵する一連の Compotus servientis Manerii de Bokkyng' (CCA のカタログ上の分類では Bedels' Rolls : Bocking) から作成。

エンドウ vesca, ソラマメの3種類の豆類である。

これらのうち最も多くかつ途切れることなく栽培されたのは小麦とオート麦のみで、その作付け規模も他の作物のそれを大きく上回った。このため、農業経営の規模を示すために作成した図1においては、主穀の小麦とオート麦のみを単独で表示し、これら以外の作物は‘その他’として合算したものを示した。

「報告書」から得られた播種面積(作付面積)の最大値は1283-84年の約276エーカーであり²⁶⁾、最大でも510エーカーの直営耕地の55%程度しか利用されていなかったことになる。

直営地耕作の最盛期は、‘合計’線が示すように、いずれの年度も250エーカーを超えて作付された1278-79年から1316-17年まで、おそらくは、小麦のデータが読み取れなかったものの‘その他’の栽培が多かった1326-27年までの期間、したがって13世紀の第3四半期から14世紀の第1四半期までの時期であろう。その後、1346-47年までは250~200エーカーの間で推移するが、1365-66年以降に急減し、70年代には100エーカー以下にまで落ち込む。

このことは「評価簿」の作成が穀物栽培の最盛期に行われことを示すものでもあるが、この時期はまた商品作物である小麦の栽培が増大した時期でもあり、「評価簿」作成時の修道院長 Henry of Eastry が所領経営に積極的であったことの証左にもなる。

1346-47年までは200エーカーを超えた播種面積が1365-66年以降に急減していることは、40年代末にイングランドを襲った‘大黒死病’の影響を示すものであろうが、47-48年から64-65年の「報告書」が見当たらず、この間のデータを利用できないため、これ以上の言及は避ける。

2) 牧畜経営の規模

領主が飼育していた家畜は馬・牛・羊・豚の4種類であるが、このうちの馬・牛・羊の年度末における飼育頭数を示したものが図2である。羊以外の飼育数に大きな変動は見られないが、ここでは馬・牛・羊のそれぞれについて簡単に説明する。

【馬群】荷車牽引用馬 equus carectarius と犁耕用馬 stottus の2種類のみで構成されており、必要な頭数は繁殖によってではなく購入によって確保されていた。

農業経営が最も活発だった1320年代までは1頭であった荷車牽引用馬が30年代以降に2ないし3頭に増加しているのに対し、犁耕用馬の数は、1346-47年(10頭)、74-75年(7頭)を例外として、作付面積が減少した時期以降も12頭の水準が維持されていた。

30年代以降に牽引用馬が増加した理由と直営地農業が衰退した時期にも犁耕用馬の頭数が維持された理由について考えてみたい。「報告書」のデータのみからは明確なことは言えないものの²⁷⁾、30年代以降の牽引用馬の増加については、30・40年代に‘運搬賦役の売却’が減少していることから判断して、具体的な内容までは分からないが運搬作業の必要性が高まったことに起因すると考えられる。一方、直営地農業の衰退期における犁耕用馬の頭数維持については、‘領主の犁によって耕された農民保有地からの犁耕収入’が減少しているため、説得力のある説明をすることは不可能である。

【牛群】去勢された牡牛 bos, 繁殖用雄牛 taurus, 雌牛 vacca と子牛段階のそれら(去勢子牛 boviculus, 雄の子牛 tauriculus, 雌の子牛 juvencula, 当歳子牛 vitulus など)で構成され、ほぼ全期間を通じてすべての種別の牛が飼育されていた。

1309-10年まではマナーにおける繁殖によって必要な数が補充されていたが、1311-12年以降は当歳子牛を購入して牛群を維持するようになっていく。雌牛がマナーのチーズ製造人 caseator や雌牛番 vaccarius に貸し出されたからである²⁸⁾。

【羊群】図から明らかなように、常にマナーで飼育されていた訳ではない。「報告書」で判断する限り、13世紀の第四四半期には雄羊 multo, 雌羊 ovis matrix, 若雄羊 hogaster, 若雌羊 gercia, 子羊 agnus

Mar. 2013

Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

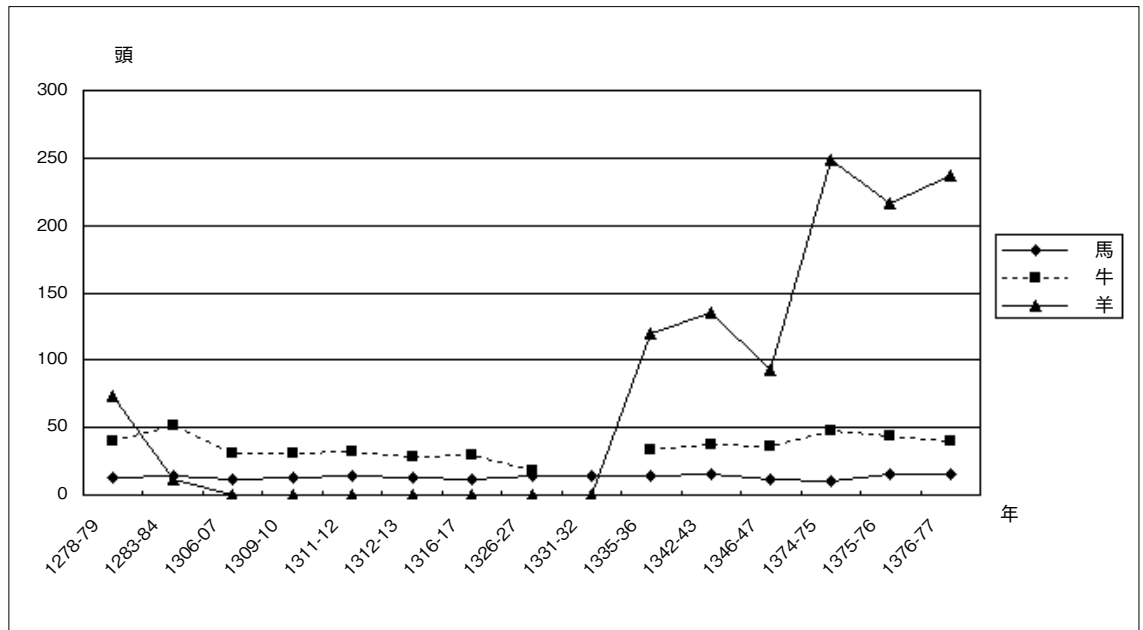


図2 年度末における家畜の飼育頭数

[出所] 図1と同じ。

が肥育されていたが、14世紀初頭から30年代までは雌羊が貸し出され、その他の種別の羊も含めてマナーでの牧羊は完全に放棄されていた²⁹⁾。

120頭の雌羊の貸し出しから得られる年間収入は、1頭につき1シリングの計算で合計6ポンドであるが³⁰⁾、雌羊が貸し出され、かつ、他の種別も飼育されなかった時期があることは、このマナーが牧羊に適していなかったことを示すものである。このことは、1278-79年と1283-84年の100にも満たない飼育頭数の少なさや、おそらくは穀物栽培の不振を補う目的で再開されたと考えられる1340年代以降の牧羊の小規模さ（最大が1374-75年の248頭である）にも表れている³¹⁾。

3) ファムルス famulus の陣容

直営地における種々の農作業を担ったのは隷属農民とファムルスである。ファムルスは、隷農の賦役では充足しがたい仕事、したがって、農作業の中でも継続的・基幹的な仕事や季節的なそれを担った奉公人である³²⁾。

Bocking には、他のマナー同様、年間を通じて雇用される通年雇用の奉公人と、繁忙期あるいは特定の時期にだけ雇用される季節雇用の奉公人がおり、ある者は給金 *solidata* と現物給 *liberatio* の両方を、ある者はいずれか一方だけを受け取っていた。ここでは通年雇用の奉公人についてのみ触れることにする³³⁾。

年間を通じて雇用されたファムルスには、マナー経営の直接の責任者であった荘役を除けば、農作業に従事する者として犁耕夫 *carucarius* や荷車引き *carectarius*、馬鋤引き *herciator*、干し草作り *tassator* がいる。これに牧畜関連の仕事を担った雌牛番と羊飼 *bercarius*、搾乳場の仕事も行っただろう女奉公人 *ancilla* を加えれば、Bocking マナーの年雇用の奉公人リストが完成する。このうち1270年代後半から1370年代後半までのおよそ1世紀間にわたって雇用され続けたのは、犁耕夫（4名）、荷車引き（1名）³⁴⁾、雌牛番（1名）³⁵⁾、羊飼（1名）、女奉公人（1名）のみである³⁶⁾。

彼らの労働と隷農の賦役がマナー経営を支えていたことは言うまでもないことであるが、ここでは一点だけ指摘しておきたい。すなわち、農業経営規模の縮小にもかかわらず、常雇いのファムルスの陣容にはほとんど変化がなかったことである。これは Monks Eleigh や Hadleigh において見られたと同じ現象であり³⁷⁾、ファムルスの陣容の維持と隷農賦役の減少が Bocking においても見られるであろうことを予想させるものであるが、これについては別の機会に明らかにしたい。

以上がマナーおよびマナー経営の概要であるが、このようなマナーにおいて14世紀初頭の農民はどのように土地を保有し、どのような義務を負っていたのであろうか。この点を以下において明らかにする。

Ⅲ 隷属農民の土地保有と義務負担

すでに述べたように、14世紀初頭のこのマナーには5種類の賦役地が存在した。「評価簿」はこれらの賦役地をタイプ別に記述し、それぞれの保有農の氏名、保有資産、義務負担を述べている。このうち、義務負担に関しては保有農ごとに賦役の内容を詳述することはせず、モデルあるいは基準となる保有地についてのみ詳しく記し、その他の保有地については「先に述べた～の如くに」vt predictus ～と簡略化した記述を行っている。このため、各賦役地の義務負担を示すには、それぞれの基準地の個所を詳述すれば十分である。

ただ、すべての賦役地について基準保有地の文章を詳しく述べることは紙幅の関係で無理があり、ここでは最も重要な賦役地であるヴァーゲイト保有地についてのみ詳述し、他の賦役地に関しては表を提示することにしたい。

1. ヴァーゲイト保有農の義務負担

virgata terre が課役のための単位であるためか、具体的な面積表示がない。一般的にはその語の本来の意味である $\frac{1}{4}$ hide、したがって30エーカー程度の面積を有する耕地であったと考えられるものの、ウィンチェスター司教領における事例はヴァーゲイトの広さが地域によりマナーによって様々であったことを示しており、ここでは面積の特定はあきらめざるを得ない³⁸⁾。一方、ヴァーゲイトにカウントされない耕地片も散見されるが、これらには基本的に面積表示がなされている。

ヴァーゲイト保有地として「評価簿」に挙げられているのは、ヴァーゲイトを2分割、4分割した $\frac{1}{2}$ ヴァーゲイトや $\frac{1}{4}$ ヴァーゲイトの耕地が含まれているため、合わせて $1\frac{1}{4}$ 単位である。2分割、4分割されたヴァーゲイト保有地が存在することは保有地の分割がある程度は進行していたことを窺わせるが、保有農民の中には単独で $3\frac{1}{2}$ 単位のヴァーゲイトを保有する者もいれば17名共同で1 ヴァーゲイトを保有するものまで、保有の様子はさまざまである。

先にヴァーゲイト保有地を賦役地と記したが、中には賦役を免除されたものが存在する(表1の V11-1)。これは賦役を貨幣で代納していた事例であり、遅くとも14世紀初頭には賦役地の一部で金納化が進行していたことを示すものであるが、貨幣を代納することで賦役を免除された事例は少なく³⁹⁾、金納化の進捗が遅かったことを示している。

賦役を貨幣で代納していたヴァーゲイトを含む $1\frac{1}{4}$ 単位のヴァーゲイト保有地について、そこに耕地を保有するヴァーゲイターの氏名と保有資産、貨幣・現物地代の内訳、賦役その他を一覧したものが表1である。

本論に立ち入る前に表の見方について簡単に触れておきたい。

参照記号欄の V1は「史料の1番目に記載されたヴァーゲイト保有農」、V2-1とV2-2は「史料の2

Mar. 2013 Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

番目に登場するヴァーゲイターの保有地のうち、2つに分けて記載されたものの1番目と2番目' という意味である。

保有農名の前の丸囲い数字は、保有者の耕地の集積度合いを知る目的で登場順にナンバリングしたも

表1 ヴァーゲイト保有農の保有資産と義務負担

参照記号	保有者	保有資産	貨幣・現物地代	賦役その他
V 1-1	① Ricardus de Bonytone	3½ virgate terre	£1 7s. 3¼d.	Type A × 3½, s.c.
V 2-1 -2	② Henricus de Bokkyng'	2 virgate terre	£1 2s. 8d.	Type A × 2, s.c.
		8 ac. terre	2s. 8d.	
V 3	③ Simon Le Wilde ③' Iohanna vxor eius	2 virgate terre	19s. 10d.	Type A × 2, s.c.
V 4	④ Rogerus Renekyn	1 virgata terre	6s. 9½d.	Type A × 1, s.c.
V 5	⑤ Iohannes atte Hill	1 virgata terre	7s. 7½d.	Type A × 1, s.c.
V 6	⑤ Iohannes atte Hill ⑥ Stephanus Hurlebat	1¼ virgata terre	8s. 4¾d.	Type A × 1¼, s.c.
V 7	⑦ Iohannes Pruet	1 virgata terre	6s. 9½d.	Type A × 1, <u>s.c.</u>
V 8	⑧ Bartholomeus de Lyouns ⑨ Isabella de Lyouns ⑩ Nicholaus Monulf	1 virgata terre	6s. 9½d.	Type A × 1, s.c.
V 9	⑪ Ricardus Osborn	1 virgata terre	15s. 10d.	Type A × 1, s.c.
V 10	⑫ Oliverus f. ⁽¹⁾ Willelmi de Bonyton' ⑬ Magister Willelmus ate Frei ⑭ Heredes Roberti et Alexandri ⑮ Prior	1 virgata terre	6s. 9½d.	Type A × 1, <u>s.c.</u>
V 11-1 -2	⑯ Iohannes de Ritlyngg'	1 virgata terre	£1 5s. ⁽²⁾	s.c.
		½ virgata terre	4s. 5¾d.	Type A × ½, s.c.
V 12	⑰ Iohannes filius henrici ⑱ Willelmus Morel ⑲ Willelmus ate Fen ⑳ Nicholaus Bannke capellanus ㉑ Iohannes Gerard ㉒ Rogerus Wytyng' ㉓ Robertus Hert' ㉔ Iohannes ate Hille ㉕ Iohannes Pruet ㉖ Walterus Nocte ㉗ Iohannes de Butetourte ㉘ Robertus Clericus ㉙ Willelmus de Basingh' ㉚ Walterus faber ㉛ Iohannes filius Thome Saher' ㉜ Nicholaus ad pontem ㉝ Thomas ate Slade	1 virgata terre 1 pastura (acreage unspecified)	10s. 8½d.	Type A × 1, s.c.

[出所] Canterbury Cathedral Archives が所蔵する Register K 所収の Extenta Manerii de Bokkyng' から作成。以下の諸表も同様である。

[備考] *virgata terre (複数形が virgate terre) は「ヴァーゲイト保有地」、pastura は「放牧地」を表す。

*s.c. は secta curie の略で「裁判所への出廷」の意味であり、s.c.は史料に「裁判所への出廷」の記述が欠けていることを表す。

*参照番号欄 V3の③' のように○数字に ' を付したものはその番号の妻であることを表し、V10の⑭のように◇で囲った数字は、名前が記されていない複数の相続者 heredes による保有であることを示す。

[注] (1) filius (息子) の略。

(2) すべての賦役が貨幣で代納 pro omnibus serviciis された金額である。

のである。この際、夫婦による共同保有 (V3) の場合は夫の番号にダッシュを付けた③' を妻の番号とし、史料が具体的な名前を表示することなくただ単に '(複数の) 相続人' heredes としている場合は彼らを1保有者として処理し、◇で囲った。

賦役その他欄に記された s.c. は secta curie の略で '裁判所への出廷' を表し、Type A は 'A タイプの賦役' という意味であり、Type A × 2 は 'A タイプの賦役を2倍行う' という意味である。

表から明らかなことは、次の4点である。すなわち、(1) 単独保有が7例で、5例が共同保有であること、(2) 共同保有の人数が、2名 (うち1例が夫婦によるもの)、3名、4名、17名と多様であること、(3) 1½ ヴァーゲイトを単独で保有する V11の Iohannes de Ritlynng' の1筆 (V11- 1) が賦役を貨幣で代納していること⁴⁰⁾。(4) 1種類の賦役タイプ (Type A) しかなく、これに保有耕地数を乗じた量が課せられていること、(5) したがってヴァーゲイト保有地の賦役は、1¼ ヴァーゲイト保有農は1ヴァーゲイターの1¼ 倍の賦役を負っているといった具合に、保有単位数に比例した極めてシンプルなものであること、である。

次に、ヴァーゲイターの義務負担のモデルとなっている Ricardus de Bonytone に関する部分を意識し、1ヴァーゲイト当たりの賦役内容と量の詳細を明らかにする。なお、訳文の前の○囲い番号は、Appendix に付した番号に対応させたものである。

★ Ricardus de Bonytone の保有地 (V1) についての全文意訳

①「Ricardus de Bonytone は、領主から父 Willelmus の世襲相続地3½ ヴァーゲイトを Bocking で保有しており、その保有地分に対して、毎年、天使聖トーマスの祝日とシュロの祝日にそれぞれ4s. (シリリング) 3¼d. (ペンス) を、二人の天使ピーターとペテロの祝日に7s. 9½d. と Poanel の耕地分の1s. 6d. を、聖母マリア誕生の祝日に4s. 8¼d. を、聖ミカエルの祝日に4s. 4½d. と Galopyn の耕地分の6d. を支払わなければならない。」

②「また Ricardus は、保有する1ヴァーゲイトごとに、聖ミカエルの祝日直後の週に1日、早朝から正午まで、自身が所有する2台の荷車で領主の畜糞をマナーの外に運び出さねばならない。なお、この作業には領主からの食事の提供はない。もし領主の畜糞がなくて運搬しなかった場合でも、Ricardus は運搬賦役の代わりに何かを納める必要もないし、(仕事を行ったものとして) 1ヴァーゲイトごとに2賦役が控除される。」

③「また Ricardus は、保有する1ヴァーゲイトごとに、小麦の播種時に自身の犁で領主の畑の指定された場所を2¼ac. 耕さねばならない。」

④「さらに Ricardus は、(保有地1ヴァーゲイトごとに)、オート麦の播種時にも自分の犁で領主の畑の指定された場所を2¼ac. 耕し、そこに種子を蒔かねばならないが、その種子は自身の馬と袋を持参して領主の穀物倉で受け取らねばならない。また、オート麦の播種時に犁耕した2¼ac. の畑を自身の馬鋤と馬を使って耙耕しなければならない。」

⑤「また Ricardus は、領主が望む場合には、聖霊降臨祭後に領主の休閒地で¾ac. を犁耕しなければならない。」

⑥「また Ricardus は、(保有地1ヴァーゲイトごとに)、収穫期に1⅞ ac. 分の小麦とオート麦を刈り取り、それを束ねた上で領主の穀物倉まで運ばなければならない。」

⑦「また Ricardus は、(保有地1ヴァーゲイトごとに)、以下の週、すなわち、領主の畜糞の運搬に従事する聖ミカエルの祝日直後の1週、小麦畑の犁耕に従事する冬季の2週、主の降誕日以降の3週、オート麦畑の犁耕に従事する春季の2週、復活祭の2週、聖霊降臨祭の1週、休閒地犁耕に従事する1週、牧草の刈り取り・拡散と領主の納屋への運搬に従事しなければならない3週、穀物の収穫と運搬に従事しなければならない収穫期の9週の合計24週と、10人組査察以外の裁判所が開かれる週——この時

Mar. 2013

Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

には賦役が免除される——を除き、それ以外の週には毎週2賦役を行わなければならない。」

⑧「また Ricardus は、他のヴァーゲイターと一緒に領主の牧草地で12½ac. 分の牧草を刈り取って拡散し、それをマナーの納屋まで運搬しなければならない。そして、この作業が終わった時に、Ricardus と他のヴァーゲイト保有農達には、1頭の牡羊か12d., 慣習による6b. (ブッシュル) のミックストコーン、上質のチーズを作った後のチーズ1個とその上に乗せられるだけの塩が与えられる。」

⑨「そして Ricardus が保有する Aysschefordeslond と呼ばれる1ヴァーゲイトは、かつて Walterus de Aysscheford' が保有していたものである。また裁判所への出廷義務を負っている。」

以上が3½ヴァーゲイトと面積不詳の耕地2筆を保有していた Ricardus de Bonytone が納めるべき貨幣地代額と果たすべき賦役の内容であるが、意訳文で示した①～⑨の内容が煩雑に過ぎるため、これを単純化した形で番号順に示せば、①【貨幣地代総額：£1 5s. 5¾d.】, ②【畜糞の運搬：自身の荷車2台で1日】, ③【小麦畑の犁耕：自身の犁で2¼ac.】, ④【オート麦畑の犁耕・播種・耙耕：自身の犁と馬、馬鋤で2¼ac.】, ⑤【休閒地犁耕：(自身の犁で)¾ac.】, ⑥【収穫作業：小麦とオート麦1⅞ac. ずつの刈り取り・結束・運搬】, ⑦【週賦役：定められた週を除き2日】, ⑧【干草作り：他のヴァーゲイト保有農とともに12½ac. の牧草の刈り取り・拡散・運搬】, ⑨【裁判所への出廷】のようになる。

Ricardus が果たすべき賦役であるが、①～③に見られるように、1ヴァーゲイト当りで示されている。もっとも、④以下の部分に保有地1ヴァーゲイトごとに pro qualibet virgata の文言はないが、後に見るように、例えば週賦役について記述した⑦について示せば、「報告書」では1ヴァーゲイト当りの賦役量と明示しており⁴¹⁾、したがって、「評価簿」の記述にこの文言がなくても、文意からそのように解釈しなければならないのである。

⑦の週賦役 minuta opera に関して一言付け加えておきたい。毎週2日の賦役が免除されたのは、年間を通じて固定された24週と10人組査察以外の裁判所開廷週であるが、裁判所の開廷日数が年度ごとに变化したため、Ricardus らヴァーゲイト保有農が負っている週賦役の日数と量は開廷日数の多寡に応じて変動するのが普通であった⁴²⁾。

このように、①～⑦に関しては保有地1ヴァーゲイトごとの賦役量・内容を示すのであるが、⑧と⑨のみは例外である。

Ricardus に他のヴァーゲイターと一緒に牧草作りに従事することを命じた⑧は、保有地1ヴァーゲイトごとに意ではなく、保有地の多寡にかかわりなく、ヴァーゲイト保有農全員の義務としての作業について述べたものである。このことは「他のヴァーゲイターとともに」cum aliis Verdlingges の文言からも明らかであるが、'12½ac.' はヴァーゲイターのみで刈り取るべき面積ではなく、ハーフ＝ヴァーゲイターを含めたヴァーゲイト保有農全員で取り組むべき面積を表している。このことは、次に述べるハーフ＝ヴァーゲイト保有地がヴァーゲイト保有地の⑧と同じ内容の牧草関連作業を課せられていることを考慮に入れば容易に理解できることである。すなわち、ヴァーゲイターとハーフ＝ヴァーゲイターがともに12½エーカーの牧草を刈り取らねばならないとしたら、「評価簿」に記された14エーカーの牧草地の範囲を超えて刈り取らねばなくなるからであり⁴³⁾、不自然だからである。

また、⑨の裁判所への出廷義務についてであるが、これも保有地の多寡にかかわりなく、同じ条件での出廷を規定したものと考えられる。というのは、保有ヴァーゲイト数が異なる V1, V2-1, V4 のいずれにおいても、末尾に独立した文章として「また、裁判所へ出廷しなければならない」Et debet sectam Curie の如く、同じ文言が記されているからである。

以上から、3½ヴァーゲイトを保有する Ricardus は、牧草作りと裁判所への出廷と、これらを除く上述の賦役を3.5倍行う義務を負っていたことになる。

2. ハーフ = ヴァーゲイト保有農の義務負担

ハーフ = ヴァーゲイト保有地として記載されているのは、賦役を貨幣で代納していた2単位のハーフ = ヴァーゲイトを含む13のハーフ = ヴァーゲイトである。ヴァーゲイト保有地にならって、これらの保有農の保有資産と義務負担を一覧したものが表2である。

表から明らかになることは、次の6点である。すなわち、(1) 見出しが「ハーフ = ヴァーゲイト保有地」Dimidie Virgate となっているにもかかわらず、 $\frac{1}{4}$ ヴァーゲイトと $\frac{3}{4}$ ヴァーゲイトの保有地が含まれていること、(2) 単独保有が7例で、6例が共同保有であること、(3) 共同保有の人数が、複数の相続者による保有を1名分とカウントして、2名、3名、4名、11名と、ヴァーゲイト保有地同様、多様であること、(4) $\frac{1}{2}$ ヴァーゲイトを単独で保有する Willelmus de Basingham (DV7) の1筆が、裁

表2 ハーフ = ヴァーゲイト保有農の保有資産と義務負担

参照記号	保有者	保有資産	貨幣・現物地代	賦役その他
DV 1	③② Thomas f. ⁽¹⁾ Saher' de Bredeforde	$\frac{1}{2}$ virgata terre	3s. 4 $\frac{3}{4}$ d.	Type B, s.c.
DV 2	③③ Elias de Westhei ③④ Robertus Gerard de Branketre ③⑤ Heredes Petri de Goldyngh'	$\frac{1}{2}$ virgata terre	3s. 4 $\frac{3}{4}$ d.	Type B, s.c.
DV 3	③⑥ Ricardus Le Moy ③⑦ Iohannes de Chileham ③⑧ Galfridus Wisman ③③ Elias de Westhei ③⑨ Nicholaus de Westhei ③⑩ Heredes Petri de Goldyngh' ④① Iohannes Clemene' ④② Iohannes Rolf' ④③ Iohannes de Thackstede ④④ Nicholaus Capellanus ④⑤ Thomas Le Hirde	$\frac{1}{2}$ virgata terre	3s. 4 $\frac{3}{4}$ d.	Type B, s.c.
DV 4	④④ Iohannes de bethundenhee ④⑤ Iohannes filius Rogeri	$\frac{1}{2}$ virgata terre	4s. 2 $\frac{1}{4}$ d.	Type B, s.c.
DV 5	④⑨ Magister Willelmus ate Fen	$\frac{1}{2}$ virgata terre	3s. 5 $\frac{3}{4}$ d.	Type B, s.c.
DV 6	④⑥ Robertus filius Roberti	$\frac{1}{2}$ virgata terre	3s. 4 $\frac{3}{4}$ d.	Type B, s.c.
DV 7	④⑦ Willelmus de Basingham ⁽²⁾	$\frac{1}{2}$ virgata terre	10s. 8d. ⁽³⁾	s.c.
DV 8	④⑧ Willelmus Morel	$\frac{1}{2}$ virgata terre	3s. 4 $\frac{3}{4}$ d.	Type B, s.c.
DV 9	④⑦ Walterus Le Peyntour	$\frac{3}{4}$ virgate terre	6s. 4 $\frac{3}{4}$ d.	Type B, s.c.
DV 10	④⑧ Iohannes aysscheford', ④⑨ Robertus Godyn	$\frac{3}{4}$ virgate terre	5s. 1 $\frac{1}{4}$ d	Type B, s.c.
DV 11	⑤① Reynerus vicarius de Gosefend ⑤② Ricardus Le Hirde ⑤③ Iacobus Le Hirde ⑤④ Iordanus frater Reyneri vicarii	$\frac{3}{4}$ virgate terre	5s. 1 $\frac{1}{4}$ d	Type B, s.c.
DV 12	④⑧ Willelmus Morel, ⑤③ Matilda de Gosefend	$\frac{1}{4}$ virgata terre	2s. 2 $\frac{3}{4}$ d.	Type A \times $\frac{1}{4}$, s.c.
DV 13	⑤⑤ Egidius Le Deyhere	$\frac{1}{2}$ virgata terre	3s. ⁽⁴⁾	mowing only, barlilver, s.c.

[注] (1) filius (息子) の略。

(2) Willelmus de Basingham が Willelmus ate Fen の相続地を終身で保有する ad terminum vite sue de Hereditate Willelmi ate Fen 耕地である。

(3) すべての賦役が貨幣で代納 pro omnibus serviciis された金額である。

(4) 牧草の刈り取り作業と裁判所への出廷義務および大麦の納付金 barlilver を除く諸賦役が貨幣で代納 pro omnibus serviciis preter sectam curie et falcationem prati et barlilver された金額である。

Mar. 2013

Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

判所への出廷以外の義務を貨幣で代納していること⁴⁴⁾、同じく $\frac{1}{2}$ ヴァーゲイトを単独保有する Egidius Le Deyhere (DV13) の1筆が「3 シリングを」納めることで「裁判所への出廷と牧草の刈り取り、大麦の納付金を除いた他のすべての賦役を」免除されていること⁴⁵⁾、(5) したがって、合算して7 ヴァーゲイト分に当たるハーフ＝ヴァーゲイト保有地のうち、1 ヴァーゲイト分がほとんどの賦役を免除されていたこと、(6) $\frac{1}{4}$ ヴァーゲイトの保有地である DV12がタイプ A の4分の1の賦役を負っていることを除けば、他は、 $\frac{1}{2}$ ヴァーゲイトであるか $\frac{3}{4}$ ヴァーゲイトであるかにかかわらず、すべてタイプ B の賦役を負っていたこと、したがって、 $\frac{1}{2}$ ヴァーゲイトと $\frac{3}{4}$ ヴァーゲイトは同じ賦役を課せられていたこと、である。

紙幅に制限があるためハーフ＝ヴァーゲイト保有地のモデルになっている Thomas filius Saher' de Bredeforde (DV 1) についての全文意訳は省略するが、Thomas が負っていた賦役内容と量は以下のようにまとめることが出来る。すなわち、①【貨幣地代総額：3 s. 4 $\frac{3}{4}$ d.】、②【畜糞の運搬：自身の荷車1台で1日】、③【小麦畑の犁耕：(自身の犁で) 1 $\frac{1}{2}$ ac.】、④【オート麦畑の犁耕・播種・耙耕：自身の(犁)と馬、馬鋤で1 $\frac{1}{2}$ ac.】、⑤【休閑地犁耕：(自身の犁で) $\frac{3}{8}$ ac.】、⑥【収穫作業：小麦とオート麦 1 $\frac{1}{8}$ ac. ずつの刈り取り・結束・運搬】、⑦【週賦役：1日】、⑧【干草作り：他のヴァーゲイターとともに12 $\frac{1}{2}$ ac. の牧草の刈り取り・拡散・運搬】、⑨【裁判所への出廷】である。

これらの賦役内容・量をヴァーゲイターのそれと比較すると、⑥の収穫賦役と⑧の干し草作り、⑨の裁判所への出廷についてはヴァーゲイターとまったく同じであり、これ以外の他の賦役・義務についてはヴァーゲイターのちょうど半分の負担を負っている。それゆえハーフ＝ヴァーゲイト保有農は、基本的には、ヴァーゲイト保有農の2分の1、したがって、保有規模に応じた賦役の負担を課せられていたことになる。

Type A = Type B \times 2 とすれば、DV12の $\frac{1}{4}$ ヴァーゲイトが負担する 'Type A \times $\frac{1}{4}$ ' の賦役量は 'Type B \times $\frac{1}{2}$ ' に等しくなり、 $\frac{1}{4}$ ヴァーゲイトの保有地も保有規模に応じた賦役の負担を課せられていたことになる。この結果、保有規模に応じた賦役の負担を課せられていなかったのが、 $\frac{1}{2}$ ヴァーゲイトと同じ賦役を課せられていた $\frac{3}{4}$ ヴァーゲイトの保有地のみということになるが、両者間の保有地規模の差は納付する貨幣地代額の差で調整されており、ここにも '賦役の金納化' の影響を読み取ることができよう。

3. フォアランド保有農の義務負担

フォアランド forlondum / forlonda は '新たに開墾された土地' '周縁にある土地' を意味する語であり⁴⁶⁾、古くからの耕地である virgata と区別するために、その後人口の増加などにともなって新たに耕地化された部分を forlondum と名付けたものと考えられる。

フォアランド保有農の保有資産と義務負担を一覧したものが表3である。

表からは以下の諸点が読み取れる。すなわち、(1) ヴァーゲイト保有地とハーフ＝ヴァーゲイト保有地ではすべてがヴァーゲイト数を記載していたのに対し、ここではフォアランド数の記述のない保有地 (F2～F6とF9) が過半を占めていること、(2) 賦役のタイプが複数存在し、複雑になっていること、(3) 出廷の義務を含めて賦役に関する記述のないものが見られること、(4) 単独保有が4例に対し、共同保有が6例で過半を占めていること、また F3のCristianaとClementiaの姉妹によるものも含め、共同保有の人数が、2名、3名、5名、9名と、ヴァーゲイト保有地同様、多様であること、である。

(1) に関して付け加えると、フォアランド数の欠如は、賦役に関する記載のない F8とF9について、これらの保有地が賦役を貨幣で代納していたために賦役の記述がないのか、それとも原本を筆写する際

表3 フォアランド保有農の保有資産と義務負担

参照記号	保有者	保有資産	貨幣・現物地代	賦役その他
F 1	③⑧ Galfridus Wysman ⑤⑥ Stephanus Spice ③⑦ Iohannes de Chileham ⑤⑦ Nicholaus Le Taliour ⑤⑧ Adam Freresman	1 forlondum	2s. 8d., 2 galline	Type C, s.c.
F 2	⑤⑨ Iohannes Yve ⑥⑩ Willelmus de Gosefend ⑥⑩ Hunfridus de Waledene	1 forlondum (1)	1s. 7½d., 2 galline	Type C, s.c.
F 3	⑥① Cristiana, ⑥② Clemecia (2)	1 forlondum (3)	2s. 7d., 2 galline	Type C, s.c.
F 4	⑥④ Matheus Le Draper ⑥⑤ Walterus ate Stable ⑥⑥ Adam Robyn ⑥⑦ Thomas Le Draper ⑥⑧ Magister Iohannes de Branketr' ⑥⑨ Henricus Otwy ⑦⑩ Willelmus Pannild ⑦① Alexander Louel ⑦② Rogerus de Nailingherst	1 forlondum	— (4), 2 galline	Type C, s.c.
F 5	① Ricardus de Bonyton' ⑦③ Walterus ate Stret ⑦④ Willelmus Le Clerk'	1 forlondum (5)	— (6), 2 galline	Type C, s.c.
F 6	⑦⑤ Edmundus Le Cuppere ⑦⑥ Robertus filius et heres Iohannni Bone	1 forlondum (7)	2s. 11¼d., 2 galline	Type C, s.c.
F 7 - 1	⑦⑦ Willelmus de Basingham	2 ½ forlondi	3s. 6½d., 6 galline	Type C × 2½ (8), s.c.
F 8	⑦⑦ Walterus filius Roberti	1 ½ forlondum	2s.1d. (9), <u>galline</u>	<u>opera</u> , <u>s.c.</u>
F 9	⑦⑧ Wymarka de Goldingham	Le Smytheslond (10)	1s. 8d., 1 vomer	<u>opera</u> , s.c.
F10	⑦⑨ Robertus Prille	1 forlondum	9d., 2 galline	Type F, s.c.

[備考] * galline は「メンドリ (複数形)」, vomer は「犁の刃」のことである。

* 四角囲いの galline や opera, s.c. (gallineや opera s.c.) は、それらに関する記述が欠けていることを表す。

[注] (1) 史料の記述は「Sulesforlond という名の或る保有地」 quoddam tenementum vocatum Sulesforlond である。

(2) Cristiana と Clemecia は Petrus de Goldingham の娘で父の保有地の相続人 filie et heredes Petri de Goldingham である。

(3) 史料の記述は「Cokeston という名の或る保有地」 quoddam tenementum vocatum Cokeston である。

(4) 貨幣地代が Simonis le Wilde 夫妻の保有地 (V3) の個所で支払われているため、ここでの支払額はゼロになっている。

(5) 史料の記述は単 Panelsforlond である。

(6) Ricardi de Bonyton' がヴァーゲイト保有地 (V1) の地代と一緒に支払っている quia allocatur et soluitur in redditus in virgate terre sue ため、ここでの支払いはゼロになっている。

(7) 史料の記述は単 Prillesforlond である。なお、このフォアランド保有地については二人の保有割合が明記されており、Edmundus が 4 分の 3, Robertus が 4 分の 1 を保有 vnde Edmundus le Cuppere tenet tres partes eiusdem forlond et Robertus quartam partem している。

(8) ただし ½ フォアランド分の賦役のうち、貨幣で代納された 2 ac. の耙耕は除く pro dimidia forlond faciet omnia alia seruicia pro quantitate sua preter herciatura ij. acrarum que relaxatur

(9) Ricardo de Bonyton' の代わりに支払う 4½d. pro Ricardo de Bonyton' .iiij.d .ob. を含む。

(10) 「Le Smytheslond と呼ばれる耕地」 terram vocatam Le Smytheslond と記されているに過ぎず、フォアランドであるのかも不明である。

に書き落としたものなのかを判断することを不可能にしている。それゆえ、フォアランド保有地に関する賦役内容の記述には不正確さが付きまとう。

Mar. 2013

Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

(2) に関して付け加えるとすれば、賦役タイプがほぼ1種類であったヴァーゲイト保有地と異なり、フォアランド保有地に関しては2種類のタイプ (Type C・F) の説明が必要になるが、紙幅の制限を考慮して、タイプCについては貨幣地代額と賦役を単純化した形で示し、タイプFについては意訳文を添える。

フォアランド保有地のモデルとなっている Wysmannesforlondum (F1, Type C) が負っていた貨幣地代額と賦役は①【貨幣地代と現物地代: 2 s. 8 d., メンドリ 2 羽】、②【畜糞の荷車への積み込み: 1 人で1日】、③【オート麦畑の耙耕: 4 ac.】、④【干草作り: 1 人が自身のフォークを用いて牧草地での牧草の拡散・収集、納屋での積み上げ】、⑤【収穫作業: $\frac{3}{4}$ ac. のライ麦の刈り取り・結束・収集】、⑥【収穫作業: $1\frac{7}{10}$ ac. の小麦と 2 ac. のオート麦の刈り取り・結束・収集・納屋への運搬】、⑦【週賦役: 1 日】、⑧【下役: 祝祭日の監視・科料の徴収・差し押さえ・布告などの仕事】、⑨【裁判所への出廷】である。

表3に示したとおり、F1とF2～F6の保有地を比較すると、貨幣地代額に若干の差異があることを除けば、現物地代である2羽のメンドリの納付も含めて賦役内容はまったく同じである。ちなみに、F4とF5の貨幣地代額がゼロになっているのは、他の保有地の箇所でもこの地代と一緒に支払われているからであり⁴⁷⁾、貨幣地代の支払いが免除されていた訳ではない。

次に、タイプCとは異なる賦役を負う Robertus Prille の保有地について全文を意識する。

★Robertus Prille の保有地 (F10, Type F) に関する全文意訳

①「Robertus Prille は、かつて Nichol Roberdessone が保有していた1フォアランドを領主から保有しており、その対価として天使ペテロとパウロの祝日に9d. の貨幣地代を支払い、主の誕生日には現物地代としてメンドリ 2 羽を納めなければならない。」

②「また Robertus は、聖ミカエルの祝日から聖霊降臨祭までは1フォアランドと同じ賦役を果たし、聖霊降臨祭から聖ミカエルの祝日までは1コトランド保有地と同じ賦役を果たさなければならない。」

③「また Robertus は、裁判所への出廷義務を負っている。」

以上が1フォアランドを保有する Robertus Prille が負っていた負担の内容であるが、これは、フォアランド保有地とコトランド保有地それぞれの賦役の一部を組み合わせた賦役である。後に見るようにコトランド保有地の負担はフォアランド保有地のそれよりも軽微であったから、Robertus Prille は他のフォアランダーよりも軽い賦役を行っていたことになる。Robertus の貨幣地代額が他のフォアランダーよりも少ないことと併せて、彼の負担が特別なものであったことになるが、その理由についてはコトランド保有地の箇所でも考察する。

以上が、二つの異なるタイプに分けられたフォアランド保有地の賦役内容である。

4. ハーフ = フォアランド保有農の義務負担

ハーフ = フォアランド保有地は全部で5単位あり、それらすべてが同じ $\frac{1}{2}$ フォアランドの耕地である。これらの保有地について保有農の保有資産と義務負担を一覧したものが表4である。

表から明らかなことは、(1) 貨幣地代額を特定できない保有地が複数 (DF4・5) 存在すること。(2) すべての保有地が DF1 とまったく同じ賦役を負っていること、(3) 共同保有が1例だけで少数であること、以上である。

(1) について付言すれば、モデルとなる Nicholas de Westhey の貨幣地代額の欄に1カ所空白部分があるため⁴⁸⁾、金額面も含めて「Nicholaus de Westhey の如くに」vt predictus Nicholaus de Westhey と記された DF4 と DF5 のそれを計算できなかったことによるもので、これらの保有地の貨幣地代額がゼロだった訳ではない。

表4 ハーフ = フォアランド保有農の保有資産と義務負担

参照記号	保有者	保有資産	貨幣・現物地代	賦役その他
DF 1	³⁹ Nicholas de Westhey	½ forlondum	(?) ⁽¹⁾	Type D, s.c.
DF 2	⁸⁰ Rogerus Le Pottere	½ forlondum	7½d	Type D, s.c.
DF 3	⁸¹ Ricardus Gerard	½ forlondum	3 s.	Type D, s.c.
DF 4	⁷⁹ Robertus Prille ⁸² Iohannes Biddoy	½ forlondum	(?) ⁽²⁾	Type D ⁽³⁾ , s.c.
DF 5	¹⁶ Iohannes de Ritlingg'	½ forlond	(?) ⁽²⁾	Type D, s.c.

[注] (1) 史料に地代額の一部分が空欄になっている部分があり、合計額は不明である。

(2) Nicholas (DF1) と同じ額の地代を支払うことになっている in omnibus sicut Nicholas de Westhey が、Nicholaus のそれが不明なため、支払額は分からない。

(3) Type D の賦役を負っている他の保有農が 2 ac. のオート麦の耙耕を義務付けられているのに対し、Robertus と Iohannes の 2 名は 3 ac. の耙耕を課せられている in omnibus sicut Nicholas de Westhey et preter hoc quod herciabit iij. acras terre auene。

(2) について付け加えれば、裁判所への出廷義務が史料に明示されているのはモデルの DF1 のみであり、他はすべて「Nicholaus de Westhey の如くに」のように記されているだけであるが、ここではすべての保有地が同一の賦役と出廷義務を負っていると理解した⁴⁹⁾。

モデルとなっている Nicholas de Westhey に関する部分を、総額が不明の貨幣地代部分 (①) を除いて単純化した形で示せば、②【畜糞の荷車への積み込み：1 人で 1 日】、【オート麦畑の耙耕：4 ac.】、【干草作り：1 人が自身のフォークを用いて牧草地での牧草の拡散・収集、納屋での積み上げ】、【収穫作業：¾ac. のライ麦の刈り取り・結束・収集】、【収穫作業：1 ⅞ ac. の小麦と 2 ac. のオート麦の刈り取り・結束・収集・納屋への運搬】、【週賦役：1 日】、【下役：祝祭日の監視・科料の徴収・差し押さえ・布告などの仕事】、③【裁判所への出廷】のようになる。

以上が、タイプ D としたハーフ = フォアランド保有地の負担であるが、タイプ C のフォアランド保有地との違いは、オート麦畑の耙耕面積が 2 エーカーと少ない点のみである。保有規模が 2 分の 1 であるにもかかわらず賦役量に大差がないこと、したがって、賦役負担が過重になっていることが特徴である。この点、ヴァーゲイトとハーフ = ヴァーゲイトの賦役量が保有規模に比例していたことと対照的である。

ハーフ = フォアランド保有地全体について言えば、貨幣地代額が異なること、DF2 の耙耕賦役面積が他のハーフ = フォアランド保有地より 1 エーカーだけ多いことを除けば、賦役の内容も量も同一であり、その斉一性が特徴でもある。

5. コトランド保有農の義務負担

コトランド保有地について、保有農名、保有資産、現物地代、賦役その他を一覧したものが表 5 である。

表から明らかなことは、(1) ヴァーゲイト保有地がそうであったように、一つのコトランド保有地が賦役の基準になっており、コトランド保有地を二つ持つ農民はその 2 倍の賦役を課されていること、(2) コトランド保有地ではなく、「ある耕地」quadam terra と表記された C 9 のみが、他の保有地と異なる賦役を課せられていること、(3) 共同保有は C 5 のみで、他はすべて単独保有であること、以上である。

モデルとなっている Robertus Bone の保有地 (C 1-1, Type E) に関する部分から賦役内容を単純化した形で示せば、①【貨幣地代総額：6 d.】、②【畜糞の散布：日数制限なし・他の小屋住みと】、③

Mar. 2013

Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

表5 コトランド保有農の保有資産と義務負担

参照記号	保有者	保有資産	貨幣・現物地代	賦役その他
C 1	76 Robertus Bone	1 cotlondum	6 d.	Type E, s.c.
		tenementi ⁽¹⁾	4 s. 4¼d.	
C 2	83 Stephanus Wokeday	2 cotlondi	1 s.	Type E × 2, s.c. ⁽²⁾
C 3	84 Nicholaus filius Petri Le Cuppere	2 cotlondi	1 s., 2 vomer	Type E × 2, s.c. ⁽²⁾
C 4	85 Matilda Prille	1 cotlondum	6 d.	Type E, s.c.
C 5	15 Prior ecclesie Christi Cant' 86 Robertus Thom'	2 cotlondi	1 s., 3 vomer	Type E × 2, s.c. ⁽²⁾
C 6	87 Nicholaus Bigelyn	2 cotlondi	6 d.	Type E, s.c.
C 7	88 Iohannes fukeressone	1 cotlondum	6 d.	Type E, s.c.
C 8 - 1 - 2	79 Robertus Prille	2 cotlondi	6 d.	Type E ⁽³⁾ , s.c. ⁽³⁾
		1 terra ⁽⁴⁾	— ⁽⁵⁾	Type F, s.c.

- [注] (1) 他に保有している複数の保有地分として pro aliis tenementis tentis (sic) de domino と記されているだけで、何筆であるのかも、また、どれだけの面積であるかも不明である。
- (2) 2 コトランドの保有に対して、賦役その他の義務は1 コトランドのみを保有している Robertus Bone (C1) の2 倍行わなければならない debet in omnibus dupliciter sicut Robertus Bone とあるが、裁判所への出廷義務については、ヴァーゲイト保有農の個所 (本稿95ページ) で記したように、コトランド保有農の場合も保有地の多寡にかかわらず裁判所への出廷義務の条件は同じであると考え、1 コトランド保有農の2 倍にはしなかった。
- (3) 2 コトランドの保有に対して、賦役その他の義務は1 コトランドのみを保有している Robertus Bone (C1) と同じ in omnibus sicut Robertus Bone になっている。sicut 以下を2 コトランド保有農の Stephanus Wokeday とすべきところを Robertus Bone と誤って転写した可能性も考えられる。
- (4) 「Drengeslond と呼ばれる耕地を」 quandam terram vocatam Drengeslond と記されているのみで、面積は不明である。
- (5) 「ミカエルマスからペンテコステまでは1 フォアランドが負うすべての奉仕を、ペンテコステからミカエルマスまでは1 コトランドが負っているすべてを行わなければならない」 debet facere a festo sancti Michaelis vaque ad Pentecosten in omnibus seruiciis sicut vna forlond Et a Pentecoste vsque ad festum sancti Michaelis in omnibus sicut vna cotlond' という文言から、貨幣地代の納付義務がないものと理解した。

【収穫作業：毎週 ¾ac. のライ麦の刈取りと結束・3 週】，【週賦役：1 日】，④【収穫作業：毎週 ¼ac. の麦の刈取りと結束・8 月1 日以降】，【収穫作業：他のコトランダーと共に共有地のエンドウのすべてを収穫】，⑤【牧草地での牧草の積み上げの手伝い】，⑥【犯罪者の監視】，⑦【裁判所への出廷】のようになる。

①について付言すれば、Robertus Bone は、コトランド保有地 (C1-1) に対する貨幣地代 6 d. の他に、le Weldelonde 以外の場所に保有する複数の保有資産分 (C1-2) として合計 4 s. 4¼d. の支払いを義務付けられているが、これらの保有資産の詳細についてはまったく記述がなく不明である⁵⁰⁾。

さらに Robertus Bone に関して付け加える。彼は、すでに示したように他の1 名と共同でフォアランドを保有していた (F6) が、これに加えて、1 コトランド (C1-1) と詳細については不明である le Weldelond 以外の場所に保有する複数の保有資産 (C1-2)，および le Weldelond に52エーカーの耕地を保有している (表6のT9)。それゆえ彼のケースは、14世紀初頭までに保有地の集積が進行していたことを示す好例になる。このような保有地の集積は Robertus Bone 以外の農民によっても行われており、本稿の最終節で改めて取り上げる。

次に、2 単位のコトランド (C8-1) と Drengeslond と呼ばれる1 耕地 (C8-2) を保有している C8 の Robertus Prille の保有地に関して検討する。

彼は2 単位のコトランドに対しては1 コトランド分の賦役 (タイプE) のみを、Drengeslond に対しては、彼が単独で保有する1 フォアランド (F10, タイプF) とまったく同じ内容の、したがって、フォアランダーとしては軽微であるものの、他のコトランド保有農よりは重い賦役を負っている。

2 単位のコトランドに対して1 コトランド分の賦役 (タイプ E) のみを負っていることについては、表 5 の注 (3) に記したように、人名の書き間違いの可能性を排除することはできないので、ここでは Drengeslond に対する重い賦役についてのみ検討する。このための前段階の作業として Robertus Prille の保有地のうちの C8-2 (Type F) について意識する。

★ Robertus Prille の保有地 (C8-2, Type G) に関する全文意識

①「Robertus Prille はまた Drengeslond と呼ばれるある耕地を保有し」、②「聖ミカエルの祝日から聖霊降臨祭まではすべてにおいてフォアランド保有地に課せられたものと同じ賦役をなし」、③「聖霊降臨祭からミカエルマスまではコトランド保有地に課せられたものと同じ賦役を行わなければならない」となっている。

②の表現は Robertus Prille が単独で保有する 1 単位 of フォアランド保有地 (F10) に関する記述の一部とほとんど同一であり、③の表現は、Robertus Bone が保有する 1 単位 of コトランド保有地 (C1) に関する記述の一部とほぼ同一である。したがって、Robertus Prille が保有する面積不詳の Drengeslond が負っていた賦役は、1 フォアランドと 1 コトランドがそれぞれに負っていた賦役の一部を組み合わせたもの (タイプ F = タイプ C の一部 + タイプ E の一部) になる。

諸賦役の遂行時期を聖霊降臨祭の前後に分けることで確定したタイプ F の賦役内容は、以下の如くなる。すなわち、②ミカエルマスから聖霊降臨祭までは【畜糞の積み込み】【オート麦畑 4 ac. の耙耕】【免除された週を除き、毎週 1 賦役】【下役の仕事】を、③聖霊降臨祭からミカエルマスまでは【収穫期の 3 週を除き、毎週 1 賦役】【収穫期の 3 週間、 $\frac{3}{4}$ ac. のライ麦の刈取り・結束】【8 月 1 日からミカエルマスまで、毎週 $\frac{1}{4}$ ac. の穀物の刈取りと結束】【エンドウの収穫】【干草作りの補助】【犯罪人の監視】を行うことであり、コトランドのモデルとなっている C1 の賦役量よりも相当重くなっていることが分かる。

これを、F10 の個所で述べたこと⁵¹⁾、すなわち、フォアランド保有農としての賦役が他のフォアランド保有農のそれよりも軽微であったこと、と関連付けて考えてみたい。

Robertus Prille は、1 フォアランド保有地に対しては優遇されていたと言っても過言ではないほどに少ない貨幣地代と軽い賦役を負担していたのであるが、これを相殺するかのように、コトランド保有地に対しては重い賦役を課せられていたのである。F10 と C8-2 を併せて考えることで、一方における‘軽微な負担’と他方における‘重い負担’を理解できるのではないかと、これが筆者の結論である。

Drengeslond の規模が不明なこともあり、上に述べたことはあくまでも一つの可能な解釈にとどまるが、これをサポートするような事例が他の所領・マナーにおいて存在するかどうかを追求することが今後の課題になる。

以上が賦役地に関する記述から読み取れる保有農民の義務負担の内容であるが、彼らはこれ以外にも死亡上納物 herietum と相続上納金 relevium を負っていた。「評価簿」によれば、保有農が死亡した際の死亡上納物は保有者が飼育していた家畜の中の 2 番目に良いものであり、(文面では‘長男’となっている) 相続者が納めるべき相続上納金は 1 年分の地代相当額であった⁵²⁾。

この節を閉じるに当って、これまでに何度か言及した le Weldelonde の保有農と Novus Redditus を支払う農民の一覧表 (表 6・7) を以下に添える。

V おわりに

これまでは同じタイプの保有地であっても賦役内容に若干の差異が存在することにも留意し、それら

Mar. 2013

Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

表6 le Weldelonde の保有農の保有資産と義務負担

参照記号	保有者	保有資産	貨幣地代
T 1	82 Iohannes Biddoy	13ac. terre (2 筆)	4 s. 4 d.
T 2	72 Rogerus de Naylingherst	22ac. terre	7 s. 4 d.
T 3	27 Willelmus de Basingham	9 ac. terre	3 s.
T 4	75 Edmundus Le Cuppere	13ac. terre	4 s. 4 d.
T 5	89 Robertus Russel	6 ac. terre	2 s.
T 6	75 Edmundus Le Cuppere	24ac. terre (2 筆)	8 s.
T 7	28 Walterus Faber	13ac. terre (4 筆)	4 s. 4 d.
		1 mesuagium	1 s. 4 d.
T 8	90 Iohannes Le Knyth'	1 cotagium	3 d.
T 9	76 Robertus f. Iohannes Bone	52ac. terre (6 筆)	17s. 4 d.
T10	41 Heredes Walteri ate strete	3 ac. terre	1 s.
T11	28 Walterus Faber	1 ac. terre	4 d.
T12	84 Nicholaus f. Petri Le Cuppere	4 ac. terre	1 s. 4 d.
T13	77 Walterus filius Roberti	8 ac. terre	2 s. 8 d.
T14	92 Iohannes de Glasne	4 ac. terre	1 s. 4 d.
T15	81 Ricardus Gerard	1 ½ac. terre	6 d.
T16	93 Henricus Pruet	4 ac. terre	1 s. 4 d.

[備考] mesuagium は「屋敷地」、cotagium は「小屋付き保有地」のことである。

表7 Novus Redditus を支払う農民の保有資産と義務負担

参照記号	保有者	保有資産	貨幣・現物地代
NR 1	37 Iohannes de Chileham	1 terra (面積不明)	4 s.
NR 2	94 Willelmus Le Parker	4 ac. terre	2 s.
NR 3	95 Rogerus Conwytyng	1 inclusa	1 s.
NR 4	42 Iohannes de Thackstede	esiamentum vie	8 d.
NR 5	96 Rogerus Le Millere	1 cotagium	1 s.
NR 6	97 Beatrix Baunkes	1 cotagium	1 s.
NR 7	98 Rogerus Godyn	1 terra (面積不明)	2 d.
NR 8	99 Walterus ate Pek'	19 ac. terre ⁽¹⁾	12s. 8 d.
NR 9	100 Petrus Gemeneth'		1 capo ⁽²⁾
NR10	100 Elyas Le trottere		1 d. ⁽³⁾
NR11	95 Rogerus Conwytyng'		2 d. ⁽³⁾

[備考] inclusa は「隠居所」、esiamentum vie は「道路に対する地役権」、capo は「オンドリ」のことである。

[注] (1) 22年リースの保有地 ad terminum .xxij. annorum である。

(2) 領主 Simon de sancto Paulo の収益からの de perquisitio domini Simonis de sancto Paulo 贈答品である。

(3) 地代の増徴分 de incremento Redditus pro terra sua (NR10), de incremento redditus eiusdem tenementi (NR11) である。

についても詳しく説明してきたが、以下においてはそうした差異を度外視し、基本的な保有地に限定してその賦役内容を一覧表の形で提示する(表8)。Bocking マナー内部における保有単位間の違いを比較することに加えて、今後の課題である他マナーとの比較を行うための資料とするためである。

表から明らかなことは、賦役内容に焦点を当てて言えば、(1) 犁耕・播種がヴァーゲイト保有地とハーフ＝ヴァーゲイト保有地に限定されていること、(2) 耙耕賦役はヴァーゲイト保有地にも課せられているものの、その中心がフォアランド保有地とハーフ＝フォアランド保有地にあること、(3) 収穫

表 8 基本保有地の賦役一覧

保有タイプ	犁耕・播種・耙耕賦役	収穫賦役	週賦役
タイプ A (1 virgata)	*小麦畑：(犁耕) 2 ¼ac. *オート麦畑：(犁耕・播種・耙耕) 2 ¼ac. *休耕地：(犁耕) ¾ac.	*小麦：(刈取り・結束・運搬) 1⅞ ac. *オート麦：(刈取り・結束・運搬) 1⅞ ac.	2日
タイプ B (½ virgata)	*小麦畑：(犁耕) 1 ⅙ ac. *オート麦畑：(犁耕・播種・耙耕) 1 ⅙ ac. *休耕地：(犁耕) ⅙ ac.	*小麦：(刈取り・結束・運搬) 1⅞ ac. *オート麦：(刈取り・結束・運搬) 1⅞ ac.	1日
タイプ C (1 forlond)	*オート麦畑：(耙耕) 4 ac.	*小麦：(刈取り・結束・収集・運搬) 1 ⅞ ac. *オート麦：(刈取り・結束・収集・運搬) 2 ac. *ライ麦：(刈取り・結束・運搬) ¾ac.	1日
タイプ D (½ forlond)	*オート麦畑：(耙耕) 2 ac.	*小麦：(刈取り・結束・収集・運搬) 1 ⅞ ac. *オート麦：(刈取り・結束・収集・運搬) 2 ac. *ライ麦：(刈取り・結束・運搬) ¾ac.	1日
タイプ E (cotlond)		*ライ麦：(刈取り・結束・運搬) ¾ac. *エンドウ：(刈取り) すべて・他の小屋住みと	1日

保有タイプ	畜糞関連賦役	干草作り関連賦役	その他の賦役	出廷義務
タイプ A	*運搬：1日・荷車2台で	*牧草の刈り取り・拡散・運搬： 12½ac.・virgater 全員で		有り
タイプ B	*運搬：1日・荷車1台で	*牧草の刈り取り・拡散・運搬： 12½ac.・virgater 全員で		有り
タイプ C	*積み込み：1日・1人で	*刈り取られた牧草の拡散・収集・納屋 での積み上げ：1人で	*祝祭日の監視・科料 の徴収・布告など	有り
タイプ D	*積み込み：1日・1人で	*刈り取られた牧草の拡散・収集・納屋 での積み上げ：1人で	*祝祭日の監視・科料 の徴収・布告など	有り
タイプ E	*散布：日数不定・他の小 屋住みと	*牧草地での積み上げ作業補助	*犯罪者の監視	有り

賦役はすべての保有地の仕事ではあるものの、比重がフォアランド保有地にかけてられていること、(4) 日数は異なるものの、週賦役がすべての保有農の義務であること、(5) 作業内容は異なるにせよ、畜糞関連賦役も全保有農の仕事であること、(6) 干し草作り賦役も全員で行う仕事であるが、刈り取り作業の担当がヴァーゲイト保有地に限定されていること、(7) 祝祭日の監視その他の仕事がヴァーゲイター以外の保有農で分担されていること、(8) 裁判所への出廷がすべての保有農の義務になっていること、である。

上に述べたことと重複する嫌いはあるが、保有地タイプに焦点を当てて言えば、(9) ヴァーゲイト保有地と基本的にはその半分の賦役を負うハーフ＝ヴァーゲイト保有地のみが農作業と牧畜の根幹部分である犁耕と牧草の刈り取りを行っていることから、また、前者のみが2日の週賦役を負っていることから、広い意味での‘ヴァーゲイト保有地’がマナー経営の中核であったこと、(10) フォアランド保有地と基本的にはその半分の賦役を負うハーフ＝フォアランド保有地は、オート麦畑における耙耕しか負っていないものの、いま一つの農作業の根幹部分である収穫作業に関してはヴァーゲイト保有地と同等かそれ以上の賦役を課せられており、したがって、それらに次ぐ重要な役割を担っていたこと、(11) 唯一犁耕賦役を課されていなかったコトランド保有地は、収穫作業においても主穀の刈り取りに

Mar. 2013

Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

はタッチしておらず、週賦役1日を課せられているとはいえ、基本的にはマナー経営のサポート役的な存在であったこと、である。

このようにマナー内部においては、効率的・合理的に役割を分担するシステムが採られていたと考えられるが、次に Middleton マナーとの比較を行う。

保有地が細分化されていた Middleton には、極端な言い方をすれば、保有農の数と同程度の保有と賦役の細分化が見られ、'保有地タイプ' や '賦役タイプ' と呼べるものは存在しなかったし、また、保有農の多くが零細農民であった中で例外的に30エーカーを保有していた保有農は5日の週賦役を負っていた⁵³⁾。

これと比べると Bocking の特徴が明確になる。すなわち Bocking では、(a) 共同保有は数多く見られるものの、保有地の均一性は保たれていた。換言すれば、共同保有者が多く存在することから細分化は進行していたと考えられるものの、保有地タイプと賦役に強い相関性を持つ大別して五つの保有地が維持されていた。(b) ヴァーゲイトやフォアランドの保有地面積が表示されていないため、どの程度の保有農が零細農あるいは富裕農であったかを明らかにすることは不可能であるが、週賦役の日数は中核的な保有地であるヴァーゲイト保有地でも2日であり、週賦役が極端に少ない。

これが Middleton との大きな相違点であるが、これらの特徴が、Middleton 以外の諸マナーと比べた場合にも見出せるのかどうか、また、週賦役はどのような基準に基づいて決定されたのか、これらを明らかにすることが今後の課題になる。

最後に、保有地の集積に関して触れておきたい。

「評価簿」に登場する保有農が101名であることはすでに述べたが、このうちの76名は、賦役を課せられているか否かに関わらず、また、単独保有であるか共同保有であるかに関わらず、一度きりしか登場しない。

全体の3分の2以上の農民の名前が一度きりしか現れないことから推測できるように、保有農の大半は5種類の賦役地のいずれかの共同所有者の一人であったり、あるいは le Weldelonde や Novus Redditus 支払い地に数エーカーを保有しているにすぎない。例えば、1 ヴァーゲイト保有地 (V12) に17名の所有者の1人として名を連ねる^{②①} Iohannes Gerard や^{②④} Walterus Nocte, le Weldelonde に4エーカーを保有する^{②②} Iohannes de Glasne (T14), 2 シリングの Novus Redditus を支払って4エーカーを保有する^{②④} Willelmus Le Parker (NR2) など、枚挙に暇がない。このような零細保有農は Middleton マナーでも多数見出されており、彼らがどのようにして日々の暮らしを維持していたかという問題に直面するが、これらについては別の機会に論じたい。

一方、76名を除いた残りの25名が複数回にわたって(1名が4回、7名が3回、17名が2回)名前が見られる保有農であるが、その多くは Bocking マナーの中では富裕な農民に属する。例えば、^① Ricardus de Bonytone は単独で保有する3½ ヴァーゲイト (V1) に加えて他の2名と共同で1フォアランド (F5) を保有し、^② Henricus de Bokkyng' は2 ヴァーゲイトと8エーカー (V2) を単独で、^{①⑥} Iohannes de Ritlyngg' も1½ ヴァーゲイト (V11) に加えて½ フォアランド (DF5) を単独で保有している。

彼らはいずれもヴァーゲイターであったが、ヴァーゲイター以外でも^{⑦⑤} Edmundus Le Cuppere は他の1名と共有する1フォアランド (F6) に加えて le Weldelonde に37エーカー (T4とT6) を保有し、^{⑦⑥} Robertus Bone は¼ フォアランド (F6) と1コトランドその他 (C1) に加えて le Weldelonde に52エーカー (T9) を保有し、1フォアランド (F10) を単独で保有する^{⑦⑨} Robertus Prille のように、他の1名と共有する½ フォアランド (DF4) に加えて2コトランドその他 (C8) を保有する者がいる。

ヴァーゲイターである^①、^{①⑥}がフォアランドにも保有していること、フォアランダーである^{⑦⑤}、^{⑦⑥}、

⑨がコトランド保有地や le Weldelonde にも耕地を保有していることは、土地の集積、したがって、土地取引がある程度進行していたことを物語るものであるが、彼らの富裕の程度については、ヴァーゲイトやフォアランドの具体的な面積が表示されていないため、これ以上言及することは不可能である。

注

- 1) 拙稿①「Middleton (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii) — Extenta Manerii de Middeltone の分析—」(『阪南論集』社会科学編, 第47巻第2号, 2012年)。
- 2) 筆者が参考にした文献は以下のとおりであるが、それぞれの内容についての言及は、マナー農民個々人の賦役の詳細に関する筆者の一連の研究発表が終わった段階で行うことにし、ここでは触れないでおく。N.E.Stacy (ed.) , *Charters and Custumals of Shaftesbury Abbey 1089-1216* (Oxford, 2006), S.R.Scargill-Bird, *Custumals of Battle Abbey, in the Reigns of Edward of Edwaward I and Edward II 1283-1312* (Camden New Series, vol.41, 1887), Marjorie Chibnall (ed.) , *Select Documents of the English Lands of the Abbey of Bec* (Camden 3rd series, vol.73, 1951), A.T.Bannister (ed) 'A Transcript of "The Red Book" of the Bishopric of Hereford (c.1200)' in *The Camden Miscellany Vol XV* (Camden 3rd series, vol.41, 1929), 國方敬司『中世イングランドにおける領主支配と農民』(刀水書房, 1993年) 森本蘆①「13世紀後期におけるノリッチ司教座聖堂付属修道院領の経済構造について」(『名古屋学院大学論集』社会科学篇, 第17巻第3号, 1981年), ②「13世紀後期におけるノリッチ司教座聖堂付属修道院領の農民的土地保有について」(『名古屋学院大学論集』人文・自然科学篇, 第17巻第2号, 1981年), ③「中世ノフォークの1村落における農民的土地保有の諸類型について」(『名古屋学院大学論集』社会科学篇, 第18巻第1号, 1981年), ④「13世紀後期におけるノリッチ司教座聖堂付属修道院領の村落構造について」(『名古屋学院大学論集』人文・自然科学篇, 第18巻第1号, 1981年), ⑤「中世ノフォークにおける農民的土地保有について—Eton の場合—」(『名古屋学院大学論集』社会科学篇, 第18巻第2号, 1981年), ⑥「中世ノフォークにおける農民の共同保有をめぐる—Newton を中心に—」(『名古屋学院大学論集』社会科学篇, 第19巻第1号, 1982年)。
- 3) 筆者は「報告書」を史料とした以下の論文において、サフォークの2マナー (Monks Eleigh と Hadleigh) における賦役の売却に関するデータを示した。拙稿②「Monks Eleigh (Suff.) における14世紀の賦役労働と雇用労働」(『阪南論集』社会科学編, 第37巻第3号, 2002年) および③「Hadleigh マナー (Suff.) における14世紀の穀物生産～収益性の分析～」(『阪南論集』社会科学編, 第44巻第1号, 2008年)。
- 4) folio Lx-r. ~ Lxiii-r. , Register K in CCA.
- 5) Henry of Eastrы は、開墾や干拓、購入、借り受けなどによって新たな耕地を獲得し、それをより高い地代で貸し出したり、主要な商品作物である小麦の作付面積を拡大したり、泥灰土の散布や種子の交換などによって収量の増大を図るなど、所領経営に積極的だった修道院長として知られている。R. A. L. Smith, *Canterbury Cathedral Priory: A Study in Manorial Administration*, Cambridge UP, 1943 (repr. 1969), pp. 116-21, 133-39.
- 6) CCA が整備している膨大なカタログ群中の一冊 DCc / Registers の13, 14ページ。
- 7) Extenta Manerii de Bokkyng' facta ibidem die Iouis proxima post festum annuntiationis beate Marie anno domini M CCC nono regni Regis Edwardi filii Regis Edwardi secundo, 本稿110ページ。
- 8) folio Cxvij-v. ~ Cxxij-r.
- 9) 文字の省略方法の違いとは、terra を t'ra とするか terr' にするかといった程度の違いのこと。
- 10) フルトランスクリプションを Appendix の形で掲載することを許可してくれた CCA に対して、この場を借りて改めて謝意を表したい。
- 11) CCA には、多寡を別にすれば、修道院がイングランド南東部を中心に所有した約60を数えるマナーのほとんどについて「報告書」が残されており、Bocking についても40以上の巻物史料 rolls が残されている。ただ、ここではそれらすべてを利用したわけではなく、1会計年度をカヴァーしていないものは用いなかった。というのは、播種面積や収穫高、家畜の飼育頭数は無論、賦役の徴収と売却などについても信頼に足る数値を求めようとすれば1会計年度をフルにカヴァーした史料でなければならないからである。そのため、例えば、CCA が保存している中で最も古い1277年の「報告書」(2月2日～9月29日までを記録したもの) のように、1会計年度に満たない史料は考察の対象から外した。
- 12) John Morris (general editor), *Domesday Book 32: Essex*, text 2-2 and map.
- 13) [terre in dominico], 本稿111ページ。
- 14) [Pratum falcabile], 同上。

Mar. 2013 Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

- 15) [Pastura separabilis], 同上。
- 16) [Columbarium. Molendini cum stagnis] および [Pastura communis], 本稿110-111ページ。
- 17) 他の4マナーのそれはLallyngが480ac., Middletonが3803/4ac., Hadleighが327ac., Borleyが300ac.である。Extenta Manerii de Lallynge in Register K, folio Lxxij-r., Extenta Manerii de Middeltune in Register K, folio Lxvij-r., Extenta Manerii de Hadlegh' in Register K, folio Lxxvij-r., Extenta Manerii de Borlee in Register K, folio Lxiiij-v. なお, Bruce M. S. Campbell, *English Seigniorial Agriculture 1250 - 1450* (Cambridge U.P., 2000) の69ページに記載された表 (Table 3.02) にはイングランド全域を対象とした直営耕地の規模に関するデータが示されているが, そこには教区牧師などが所有する小規模な直営耕地が多数含まれており, 他の聖界所領のマナーとBockingを比較するには不適当であるため, その試みを断念した。
- 18) Extenta Manerii de Bokkyng' in Register B, folio Cxv-r. [Domisday Domini Regis], John Morris, op. cit., text 2-2.
- 19) 'dil' は, 筆者が参照したラテン語辞典や中世ラテン語辞典および中世英語の辞書類の中に見出すことのできなかった語である。断定的なことは言えないものの, dilがde+leの短縮形であり, 現代のイタリア語やスペイン語に見られるdi+leの短縮形delと同じ役割を果たす語であったと考えている。このため'dil'を訳す場合には, 'de+le'に分解して「le Weldelondeの～」のように表現した。人名を表す際に, 例えば, Simon le Wilde (V3) や Matheus le Draper (F4) のように'le'をつけたまま表記するのに合わせるためである。
- 'dil' = 'de+le'と考えたのは, HadleighマナーのExtentaに見られる以下の用例を検討した結果である。
- ① terram vocatam Werengeslond ⇒ Tenentes terrarum de Werengeslond [folio Lxxix-v.], ② terram vocatam le Hillond ⇒ Tenentes terrarum dil Hillond [folio Lxxxij-r.], ③ terram vocatam le Redeslond ⇒ Tenentes terrarum dil Redeslond [folio Lxxxij-r.], ④ terram vocatam le Briggeslond ⇒ Tenentes terrarum dil Briggeslond [folio Lxxxij-d.], ⑤ terre vocate Blakelond ⇒ Tenentes terrarum dil Blakelond [folio Lxxix-v.], ⑥ terre vocate Crosclond ⇒ Tenentes terrarum dil Crosclond [folio Lxxx-r.], ⑦ terram vocatam Husebondeslond ⇒ Tenentes terrarum dil Husebondeslond [folio Lxxxij-r.], ⑧ terram vocatam Waterlond ⇒ Tenentes terrarum Le Waterlond [folio Lxxx-v.] 【出所はすべて Register K in CCA である。】
- ①を例にとって例文の見方を説明すると, 矢印の前の部分は本文中で「Werengeslond と呼ばれる耕地を」の意味で使われているものであり, 矢印の後の部分は「Werengeslond の保有農」の意味で使われている見出し部分である。
- 「評価簿」を見る限り, ①のように場所・地名の前にdeを入れることで「～の」を表すのが一般的ではあるが, 地名・場所名にleのついた②～④のケースでは'de le'ではなく'dil'が使われている。これらの例からde+le=dilと考え, [Tenentes dil Weldelonde]を「le Weldelondeの保有農」と訳したのである。
- ところで, ⑤～⑦のように地名の前にleがないにもかかわらずdilを使用している例や, ⑧のようにdeではなくleが使われているケースもある。これらについては筆写の際の「抜け落ち」や「誤記」の可能性も考慮して次のように処理した。すなわち, 矢印の後の部分にdilが使われている⑤～⑦については矢印の前の部分のleが抜け落ちたものと考え, 本来の表記がそれぞれle Blakelond, le Crosclond, le Husebondeslondであったと仮定し, ⑧に関してはdeをleと誤って転写したものと仮定した。
- 20) 所領群管理責任者 *custos*, *warden* とは複数のマナーで構成されるマナー管轄区 *custodia*, *custody* の管理責任者であり, 荘宰 *ballivus*, *bailiff* はその下役である。共に修道士が務める役職であった。R. A. L. Smith, op.cit., pp.100～01. エセックスに存在したBockingやMiddleton, サフォーク所在のHadleighやMonks Elleighなどのマナーは, エセックス管轄区 *Custodia Essexae* に属し, その責任者である *custos* の管理下に置かれていた。
- 21) 1311-12年の「報告書」の地代収入欄 *Redditus* では, Et de .iiij. s. noui redditus per annum de terra dimissa in Woderede とか Et de .viiij. d. noui redditus per annum de quadam droua dimissa in Rokesfeld', Et de .ij. s. noui redditus per annum de .ij. rodīs terre dimissis apud la Donnehosi [Bedels' Rolls : Bocking ⑧, recto] などと記されており, 'nouus redditus' がリース料であったことを示している。
- 22) 14世紀初頭における賦役の金納化や直営地の貸出しは本稿のテーマに直接的な関連性を有さないため, 別の機会に取り上げることにする。
- 23) *cotlondum* は「小屋住み保有地」「小屋住み農地」と呼ばれるものに相当するが, 本稿では他の賦役地を史料の用語を生かした表現にしたことに合わせて「コトランド」または「コトランド保有地」とした。したがって, その保有者も「小屋住み農」ではなく, 「コトランド保有農」とした。
- 24) 本稿の表1～5から算出。
- 25) 本稿では, 混乱を避けるために, 作物栽培に関わることを「農業経営」または「直営地耕作」, 家畜の飼育に関わることを「牧畜経営」と表現し, 両者を総合する概念として「マナー経営」を用いた。

- 26) 1278-79年と1283-84年の「報告書」は種子の播種量を作物ごとに記しているだけで、播種面積やエーカー当たりの播種量についての情報をまったく与えてくれない。このため、14世紀初頭以降の「報告書」に記されたエーカー当たりの播種量を援用して作物ごとの播種面積を計算し、両年の総播種面積を求めた。算出の基になった数値の詳細は別の機会に記すことにしてここでは省略するが、1278-79年と1283-84年の播種面積のみが概数であることを記しておく。
- 27) 「報告書」表面に記載された二つの収入項目 ([賦役の売却収入] *Consuetudines* と [犁耕の売却] *Arura vendita*) の前者からは売却された運搬・犁耕賦役の数と金額が、後者からは農民保有地の犁耕によって得られた収入額がそれぞれ確認できる。データの詳細については省略するが、例えば必要な数値がすべて読み取れる年度に限定して示せば、売却された運搬賦役は 3 s. 7 d. (1278-79年), 4 s. 9½d. (1283-84年), 6 s. 8 d. (1306-07年), 6 s. (1311-12年), 3 s. 4 d. (1316-17年), 1 s. (1326-27年), 3 s. 4 d. (1331-32年), 0 (1342-43, 46-47年), 11s. 10d. (1366-67, 74-75, 75-76, 76-77年) であり、売却された犁耕賦役は 3 s. 1½d. (1278-79年), £1 12s. 6 d. (1283-84年), £1 3 s. 9 d. (1306-07年), £2 4 s. 3 d. (1311-12年), £1 2 s. (1316-17年), 13s. (1326-27年), 14s. (1331-32年), £1 1s. 10½d. (1342-43年), 18s. 10½d. (1346-47年), £3 11s. 3d. (1366-67, 74-75, 75-76, 76-77年) である。
- 一方、農民保有地の犁耕によって得られた収入金額は 13s. 4 d. (1278-79年), £1 2 s. (1283-84年), 8s. (1306-07年), 11s. 4 d. (1309-10年), 19s. (1311-12年), £1 4 s. 6d. (1312-13年), £1 3 s. 8 d. (1316-17年), 7 s. (1326-27年), 5 s. (1331-32年), 13s. 4 d. (1335-36年), 6 s. (1342-43年), 12s. (1346-47年), 0 (1366-67, 74-75, 75-76, 76-77年) である。
- 28) 例えば1342-43年の「報告書」では、家畜勘定の雌牛欄 *vacce* には請負に関する文言がなく、当歳子牛欄 *Vituli exiti* に「チーズ製造人から誕生した子牛 3 頭を購入」*Et de .iij. vitulis de exitu emptis cum caseatore Et remanent .iij. vituli exiti* [Bedels' Rolls : Bocking ⑤ (1342-43年), verso] と記されているにすぎず、貸し出されたかどうかを明確にできない。しかし、表面の収支勘定の搾乳場欄 *Daeria* に「また、請負に出された妊娠中の19頭の雌牛からの 6 ポンド 6 シリング 8 ペンスについて (報告する)」*Et de .vj. libris .vj. solidis .viij. denariis de .xix. vaccis dimissis ad firmam cum vitulis precium capitis .vj. solidi .viij. denarii Et non plus hoc anno quia .j. sterilis* [ditto] とあり、雌牛が貸し出されていたことが明らかになる。なお、1342-43, 46-47年の請負人の名称は *caseator* であるが、70年代の「報告書」ではすべて *vaccarius* になっている。
- 29) 1306-07年の「報告書」の羊欄 *Oues* が空白になっており、また、1309-10年から1335-36年の「報告書」の羊欄には単に「収入を目的として貸し出された120頭の雌羊に関するメモ」*Memorandum de ouibus matricibus dimissis ad profectum* [Bedels' Rolls : Bocking ⑧ (1311-12年), verso] などと記されているだけで、雌羊以外の種別についての記述はまったく見られない。
- 30) 収支勘定の搾乳場欄には「また、120頭の雌羊からの 6 ポンドの収入、すなわち (産まれるであろう) 子羊と羊毛、乳に対する評価として雌羊一頭につき12ペンスについて (報告する)」*Et de .vj. libris de profectu .ouium matricium scilicet pro agno lana et lacte cuiuslibet ouis matricis .xij. denarii* [ditto] という記述がある。
- 31) 羊は農民にとっても領主にとっても重要な家畜であったが、すべてのマナーで領主の羊群が維持されたわけではなく、また、牧羊を行っていてもそれが極めて小規模だったマナーも存在する。ウィンチェスター司教領の38マナーにおける14世紀第1四半期の平均飼育頭数を示せば、3 マナーで0頭、4 マナーで100頭未満、5 マナーで199頭未満、4 マナーで299頭未満であり、Bocking が例外的なマナーではなかったことを示している。ちなみに、最も多く飼育していたのは1709頭の *Twyford* マナーであるが、これ以外にも 4 マナーで1000頭以上が飼育されていた。J. Z. Titow, *Winchester Yields : A Study in Medieval Agricultural Productivity* (Cambridge U.P., 1972), Appendix L (pp.136-39).
- 32) M. M. Postan, *The Famulus : The estate labourers in the xiith and xiiith centuries*, *The Economic History Review Supplements* 2, 1972, pp. 2-3.
- 33) 代表的な季節雇いのファムルスとして挙げられるのは、収穫期に限定して雇われる収穫夫 *messor* (1名) と干し草作り (1名)、小麦とオート麦の播種時にのみ作業を行う *garcio* と呼ばれる奉公人 (各1名) で、これら4名は考察対象全期間を通じて「報告書」に登場する。*garcio* は小麦の播種時の6週間にわたって畔溝を広げる作業などに従事したり、オート麦の播種時の8週にわたって鳥追いなどの作業を行った奉公人の呼称である。彼らの存在はライ麦の支給欄 *Siligo* から確認できる。[*Siligo*] *In liberatione .j. garcionis spargentis sulcos ad seysonam yhemalem per .vj. septimanas .iij. busselli. In liberatione .j. fugantis aues et euntis ad carucam dum seminator seminavit ad seysonam auene per .viij. septimanas .iiij. busselli*, [Bedels' Rolls : Bocking ⑧ (1311-12年), verso].
- 34) ただし、給金を受け取る者と現物給を受け取る者を別人と考えれば2名である。

Mar. 2013 Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

- 35) 1370年代のみ2名に増加している。
- 36) 馬鋤引きは4カ年、干し草作りは1年間のみの雇用である。干し草作りは季節的に雇用されることが一般的であり、1年間を通じての雇用は例外的なものである。
- 37) 前掲拙稿②55-56ページ、同③82-84ページ。
- 38) ウィンチェスター司教領の事例は40 ac. と32 ac. が中心的な面積であること、これ以外に最大60 ac. から最小16 ac. までの間でさまざまな面積が見られたことを示している。John Mullan and Richard Britnell, *Land and Family : Trends and local variations in the peasant land market on the Winchester bishopric estates, 1263 - 1415* (Studies in Regional and Local History, Vol. 8, Hertfordshire U. P., 2010) , pp. 38-42, especially Table 3.1 in the p. 39. なお、Mullan and Britnell 以外のヴァーゲイト保有地の広さをめぐる先学の諸見解については、吉田敬洋「13世紀後期から14世紀初期イングランドにおける農民の生活水準と保有地：先行研究の概観を中心に」(『六甲台論集—経済学編—』第57巻第1号<2010年9月>、13-15ページ) に要領よくまとめられている。
- 39) 賦役を免除されていたのは、17¼ 単位のヴァーゲイトのうち1単位 (V11-1) 、14単位のハーフ＝ヴァーゲイトのうち1単位 (DV7) 、10単位のフォアランドのうちの2½ 単位 (F8,F9) のみであり、13単位のコトランドはすべて賦役を課せられていた。もっとも、一部を免除された事例も一つ (DV13) 見られる。
- 40) — pro omnibus serviciis. Et debet sectam Curie. とあり、裁判所への出廷義務以外が貨幣で代納されていたことが分かる。
- 41) 例えば、1311-12年の賦役勘定 Compotus operum の冒頭に記された賦役欄 orera には、ハーフ＝ヴァーゲイト保有地も含めた全体で22¼ ヴァーゲイトが果たすべき週賦役について、Opera // Respondet de .MM.CCC.xiiij. operibus de exitu .xxij. virgatarum .j. quarte terre in Bockyng' per annum videlicet de qualibet virgata qualibet septimana .ij. orera. [Bedels' Rolls : Bocking ⑧, verso] とあり、週賦役2日が各ヴァーゲイト保有地の義務であったことを示している。
- 42) 例えば、1312-13年には11日が免除されたが、1316-17年には5日しか賦役日の免除はなかった。[Bedels' Rolls : Bocking ⑨ (1312-13年) および⑩ (1316-17年), verso]。
- 43) [Pratum falcabile], 本稿111ページ。
- 44) — pro omnibus serviciis. Et debet sectam Curie. とあり、上の40) で記した文言とまったく同じである。
- 45) 表2の注(4)を参照されたい。
- 46) 「評価簿」と「報告書」では中性名詞としての使用が多いものの、時には女性名詞として扱われることがある。ここでは、この語を修飾する語が女性形でない限り、中性名詞として扱う。このことは、次に取り上げる cotlondum についても同様である。
- 47) F4の地代額1s. は Simonis Le Willed が妻の Iohanna と共同保有する V3のヴァーゲイト保有地の地代とともに支払っている (F4では Et ~~~ preter redditum assisum qui non soluitur hic quia alias solvitur in Redditu Simonis Le Willed in virgata terre と記され、V3では Simon Le Wilde Et Iohanna vxor ~~~ de terra Godefridi Le fenere ad idem festum .vj.d ~~~ de terra Godefridi faber .vj.d と記述されている)。また、表3の注(6)にあるように、F5の地代額1s. 10d. は Ricardus de Bonytone が V1の保有地の地代とともに支払っている。
- 48) 表4の注(1)(2)を参照されたい。ちなみに、Register Bの当該箇所も空白になっている。
- 49) これまでに上げた3種類の保有地の場合、基本的には、賦役内容が同じであることを示す vt predictus ~ の文言がある場合でも、それぞれの説明の末尾に Et debet sectam Curie が添えられていた。これに対し、ハーフ＝フォアランド保有地の場合、さらには後述するコトランド保有地の場合も、モデルとなる保有地に関してのみ Et debet sectam Curie の文言が付いているだけで、他のすべての保有地には Et debet in omnibus aliis serviciis sicut et Nicholaus de Westhey pro Westheyeslond のように記されているだけである。モデルとなる保有地のみが出廷義務を負っているとは考えられず、「他のすべての奉仕において」 in omnibus aliis serviciis に出廷の義務が含まれていると解釈したからである。
- 50) 表5の注(1)を参照されたい。
- 51) 本稿99ページ。
- 52) [Herietta] [Relevia], 本稿120ページ。なお、結婚許可料 merchetum に関する記述は見あたらない。
- 53) 前掲拙稿①, 128ページ。

Appendix

Extenta Manerii de Bokkyng' in Register K

< Lx-r. ~ Lxiiij-r. / 80-r. ~84-r. >

< Lx-r. / 80-r. >

//Extenta Manerii de Bokkyng'.

Extenta Manerii de Bokkyng' *facta* ibidem die Iouis *proxima* post *festum* Anunciacionis beate Marie. Anno domini .M.CCC. nono. Regni Regis. Edwardi. filii Regis .Edwardii. secundo coram Iohanne Le Doo tunc seneschallo *per* manus Willelmi de Folesham clerici *per* sacramentum Iohannis atte Hil de Bokkyng' Iohannis de Chileham Iohannis Bethundenhee Willelmi Le Clerk' de Bokkyng' Walteri Robert' Walteri Fabri Thome filii Saher' de Bredforde Thome filii Henrici de Bredforde Elie de Westhey Iohannis Le Knyth' Roberti Prille *et* Edmundi Le Cuppere qui dicunt quod Dominus Prior et Conuentus tenent Manerium de Bokkyng' in Liberam puram et perpetuam elemosinam vt intelligunt.

Mesuagium. Curtilagium. Gardinum. Pannagium.*

//Est ibidem vnum Mesuagium bene *et* sufficienter edificatum et situs inde *continet* in se *per* estimacionem .v. acras terre et valet herbagium inde *per* annum .viij. d. Et Curtilagium inde valet *per* annum .xij. d. aliquando plus aliquando minus secundum quod appruatur. Et Gardinum inde valet *per* annum vt in pomis piris *et* vuis vinearum cum acciderint .xij. s. iiij. d. Et pannagium inde valet *per* annum .vj. d.

//Summa .xv. s. vj. d.

Columbarium. Molendini cum stagnis.*

//Est ibidem vnum Columbarium bene instauratum et valet *per* annum .iiij. s. aliquando plus aliquando minus Summa patet

//Sunt ibidem duo Molendini. vnum Molendinum aquaticum ad Bladum molandum. et aliud Molendinum folerectum et valent *per* annum .vij. li. vj. s. viij. d. aliquando plus aliquando minus. Et pischaria in stagnis Molendinorum valet *per* annum .xij. d.

//Summa .vij. li. vj. s. viij. d.

[凡例]

- 1) イタリックスの文字は史料では省略されている文字を補ったものであり、下線を引いた文字は文字列の上部に記されている文字であることを表す。例えば、史料中の a^o dno はここでは *anno domino* と表記されている。
- 2) **Messuagium*** のように * マークを付したゴシック文字は、すべて欄外に記された文字であることを示す。
- 3) < >内の文字と数字は史料が記載されているページを示したものであるが、それぞれのページにはラテン数字とそれとは異なるアラビア数字の書き込みがある。アラビア数字は後世に書き込まれたものと考えられるが、ここでは念のために両者を併記した。
- 4) ○囲い数字や [], () を付した部分は筆者が付け加えたものである。例えば、①は本文中の意識部分の①に対応させたものであり、参照のために付した (V1) はヴァーゲイト保有地に関する1番目の保有農であることを表す。

Mar. 2013 Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

Boscus.*

Est ibidem quidam Boscus vocatus Bokkyngeperck' et continet in se .CCCC. acras per estimationem per maius centum Et subboscus inde valet per annum et Hoc sine wasto .xl. s. Et Herbagium inde valet per annum .xij. d. et non plus quia non crescit nisi per Loca pauca. Et pannagium inde valet per annum .x. s. Est ibidem quidam alius boscus vocatus Le Hoo et continet in se .x. acras et subboscus inde valet per annum .xij. d. Et Herbagium inde valet per annum .vj. d. Et pannagium inde valet per annum .vj. d.

//Summa .Lij. s.

terre in dominico.*

//Sunt ibidem de terra arabili in dominico in diuersis Campis .D. et .x. acre per minus centum. et valet quelibet acra per annum .vj. d.

//Summa .x. li. v. s.

Et sciendum quod perticata terre in isto Manerio debet esse de Longitudine .xvj. pedes et dimidius Et quelibet acra congrue potest seminari de .ij. bussellis frumenti et dimidio. de .ij. bussellis et dimidio siliginis. de .ij. bussellis et dimidio auene. per mensuram Cumulatam de .ij. bussellis dimidio pisarum. de .iij. bussellis fabarum Et de .iiij. bussellis ordeï. Et caruca potest communiter arrare .vnam. acram per diem et debet iungi de .vj. affris et .ij. bobus.

Pratum falcabile.*

Sunt ibidem de prato falcabili apud Vppemedwe in villa de Stistede et continent in se .vij. acras precium acre .iiij. s. et eciam apud Gorymedwe .vij. acras precium acre .iiij. s.

//Summa .Lvj. s.

Pastura separabilis.*

Sunt ibidem de pastura separabili cum viis semitis erga dictam pasturam .xxx. acre et valet quelibet acra per annum .xij. d. Et vnde .xvj. acre conueniunt bobus et affris et iacent apud Le Brom. Et .xiiij.⁽¹⁾ acre inde que iacent apud Le Dunemersh' et apud Le pond conueniunt vaccis et assignant eiisdem. Et de Pastura in foueis circa terras domini per diuersa Loco ad firmam aliquando dimissam .iiij. s.

//Summa .xxxiiij. s.

< Lx-v. / 80-v. >

Pastura communis.*

//Et sciendum quod Dominus Prior et Conuentus est capitalis dominus commune pasture de Bokkyng' et potest pasturare in eadem pastura cum Esiammentis camporum et friscorum domini tempore aperto .^{xx} v. bidentes et valet pastura per annum .xx. s.

//Summa .xx. s.

Perquisitio Curie.*

//Est ibidem quedam Curia de tenentibus domini de .iiij. septimanis in .iiij. septimanis et valent fines et perquisiti inde per annum cum visu francipleggi .Lx. s. aliquando plus.

//Summa .Lx. s.

//Et Sciendum quod omnes tenentes de virgatis terre et dimidiis virgatis et eciam tenentes [de] Forlondes et dimidiis Forlondes in Manerio predicto debent dare domino ex consuetudine ad festum Anunciacionis beate Marie .vj. quarteria ordeï et .vj.⁽²⁾ quarteria auene que valent per annum per

Estimationem .xl. s.

//Summa .xl. s.

Virgate terre.*

(V1) ① Ricardus de Bonytone ⁽³⁾ tenet de domino in Bokkyng' tres virgatas et dimidiam terre de hereditate Willelmi patris sui Reddendo inde per annum ad festum sancti Thome apostoli .iiij. s. iij. d. ob. q. Ad festum Palmarum .iiij. s. iij. d. ob. q. Ad festum apostolorum Petri et Pauli .vij. s. ix. d. ob. Et pro terra poanel .xvj. d. Ad festum Nativitatis beate Marie .iiij. s. viij. d. q. Ad festum sancti Michaelis .iiij. s. iiij. d. ob. Et de terra Galopyn ad idem festum .vj. d. ② Et debet pro qualibet virgata terre cariare fima domini extra Manerium cum duabus carectis suis sine cibo domini videlicet in prima septimana post festum sancti Michaelis per vnum diem a mane vsque ad Merediem. Et si non cariauerit ; neque fum' ⁽⁴⁾ fuerit ; nichil dabit pro cariagio set allocabuntur pro cariagio cuiuslibet virgate .ij. opera ③ Et debet arrare pro qualibet virgata terre ad seminem frumenti cum Caruca sua duas acras et vnam Rodam ad certum Locum super terram domini. ④ Et ad seminem Auene duas acras et vnam Rodam et seminabit dictam terram et queret semen ad granarium domini cum Equo et sacco suo proprio. ⑤ Et herciabit duas acras et vnam Rodam tempore seminis auene cum hercia et equo proprio. ⑥ Et debet post Pentecosten arrare tres Rodas terre in quocumque Campo dominus voluerit in suis dominicis. ⑦ Et debet metere in Autumpno Ligare et cariare vsque ad Grangiam domini ; vnam acram et tres Rodas et dimidiam Rodam. de frumento. et tantum de Auenam. ⑧ Et debet qualibet septimana per annum duo opera sine cibo domini excepta illa septimana proxima post festum sancti Michaelis qua cariauerit fima et duabus septimanis in yeme quando arrabit ad seminem frumenti et tribus septimanis ad Natale. et duabus septimanis quando arrabit ad auenam. et .ij. septimanis ad Pascha. et vna septimana ad Pentecosten et vna septimana quando warectabit et .iiij. septimanis quando falcabit prata et Leuauerit et cariauerit fenum in grangium domini et exceptis .ix. septimanis in autumpno pro Messione et cariagio bladi. Et pro qualibet Curia tenta debet esse quietus de vna septimana excepto visus franciplegii. ⑨ Et debet falcare .xij. acras prati et dimidiam et Leuare et cariare fenum domini ad Manerium simul cum aliis Verdlingges et habebunt vnum hurtardum vel .xij. d. et .vj. bussellos Mixtilonis ex consuetudine et vnum Caseum daerie post meliorem tempore quo falcauerint et tantum de sale quantum poterit reponi super formulam Casii. Et vnde vna virgata terre vocata Aysschefordeslond et quondam fuit in seisia Walteri de Aysscheford' Et debet sectam Curie. (V2-1) //Henricus de Bokkyngg' tenet de domino in dominico et seruicio duas virgatas terre Reddendo inde per annum ad festum sancti Thome apostoli .iiij. s. ob. Ad festum Palmarum .v. s. xj. d. Ad festum Petri et Pauli .v. s. iiij. d. ob. Ad festum Nativitatis beate Marie .ij. s. vj. d. Ad festum sancti Michaelis .v. s. x. d. Et debet pro qualibet virgata terre cariare fima. Arrare. herciare seminare et semen querere. warectare. falcare. prata Leuare. et ad grangium domini cariare. Metere bladum in autumpno et omnia alia seruicia sicut Ricardus de Bonytone pro tanta terra. Et faciet sectam Curie. (V2-2) //Item idem Henricus tenet de domino dil Weldelond .viij. acras terre Reddendo inde per annum ad festum sancti Thome Apostoli .viij. d. Ad festum Palmarum .viij. d. Ad festum Petri et Pauli .viij. d. Ad festum sancti Michaelis .viij. d. (V3) //Simon Le Wilde et Iohanna vxor eius tenent de domino in dominico et seruicio Duas virgatas terre. Reddendo inde per annum ad festum sancti Thome apostoli .ij. s. x. d. ob. Ad festum Palmarum .iiij.

Mar. 2013 Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

s. iij. d. ob. Et de terra Godefridi Le fenere ad idem festum .vj. d. Ad festum Petri et Pauli .v. s. x. d. Ad festum Nativitatis beate Marie .ij. s. vj. d. Ad festum sancti Michaelis .iiij. s. iiij. d. Et de terra Godefridi faber (sic) .vj. d. Et debet in omnibus aliis serviciis sicut dictus Ricardus de Bonyton' pro tanta terra. Et debet sectam Curie.

< Lxj-r. / 81-r. >

(V4) //Rogerus Renekyn tenet de domino vnam virgatam terre Reddendo inde ad festum sancti Thome apostoli .xv. d. Ad festum Palmarum .xv. d. Ad festum Petri et Pauli .xxj. d. Ad festum Nativitatis beate Marie .xv. d. Et ad festum sancti Michaelis .xv. d. ob. Et debet in omnibus aliis serviciis et consuetudinibus sicut predictus Ricardus de Bonyton' pro tanta terra. Et debet sectam Curie.

(V5) //Iohannes atte Hil tenet de domino vnam virgatam terre Reddendo inde per annum ad festum sancti Thome apostoli .xv. d. Ad festum Palmarum .xv. d. Ad festum apostolorum Petri et Pauli .xxxj. d. Ad festum Nativitatis beate Marie .xv. d. Ad festum sancti Michaelis .xv. d. ob. Et debet in omnibus aliis serviciis et consuetudinibus sicut dictus Ricardus pro tanta terra. Et debet sectam Curie.

(V6) //Item Idem Iohannes atte Hil. et Stephanus Hurlebat tenent de domino vnam virgatam terre et vnum quarterium Reddendo inde per annum ad festum sancti Thome apostoli .xviij. d. ob. q. Ad festum Palmarum .xviij. d. ob. q. Ad festum Petri et Pauli .xviij. d. ob. q. Item ad idem festum .viij. d. ob. Ad festum Nativitatis beate Marie .xviij. d. ob. q. Ad festum sancti Michaelis .xviij. d. q. Et debet in omnibus aliis serviciis sicut dictus Ricardus pro tanta terra. Et debet sectam Curie.

(V7) //Iohannes Pruet tenet de Domino vnam virgatam terre Reddendo inde ad festum sancti Thome apostoli .xv. d. Ad festum Palmarum .xv. d. Ad festum Petri et Pauli .xxj. d. Ad Nativitatem beate Marie .xv. d. Ad festum sancti Michaelis .xv. d. ob. Et debet in omnibus aliis. sicut predictum est.

(V8) //Bartholomeus de Lyouns et Isabella de eodem et Nicholaus Monulf' tenent de domino vnam virgatam terre Reddendo inde ad festum sancti Thome apostoli .xv. d. Ad festum Palmarum .xv. d. Ad festum Petri et Pauli .xxj. d. Ad Nativitatem beate Marie .xv. d. Ad festum sancti Michaelis .xv. d. ob. Et debet in omnibus aliis serviciis consuetudinibus sicut predictus Ricardus de Bonyton' pro tanta terra. Et sectam Curie.

(V9) //Ricardus Osborn tenet de domino vnam virgatam terre Reddendo inde per annum ad festum sancti thome. apostoli .ij. s. vj. d. Ad festum Palmarum .ij. s. vj. d. Ad festum Petri et Pauli .v. s. vij. d. Ad Nativitatem beate Marie .ij. s. vj. d. Ad festum sancti Michaelis .ij. s. ix. d. Et debet in omnibus aliis serviciis et consuetudinibus sicut dictus Ricardus pro tanta terra. Et debet sectam Curie.

(V10) //Oliuerus filius Willelmi de Bonyton' Magister Willelmus ate Feri Heredes Roberti [et] Alexandri tenent de domino. Et Prior similiter tenet vnam virgatam terre vocatam Le Wilelond. Reddendo inde per annum ad festum sancti thome apostoli .xv. d. Ad festum Palmarum .xv. d. Ad festum Petri et Pauli .xxj. d. Ad Nativitatem beate Marie .xv. d. Ad festum sancti Michaelis .xv. d. ob. Et debet in omnibus aliis sicut predictum est.

(V11) //Iohannes de Ritlyngg' tenet de Domino vnam virgatam terre. Reddendo inde per annum. ad festum sancti thome apostoli .vj. s. iij. d. Ad festum Palmarum .vj. s. iij. d. Ad festum Petri et Pauli .vj. s. iij. d. Ad festum sancti Michaelis .vj. s. iij. d. pro omnibus serviciis. Et debet sectam Curie. //Idem Iohannes tenet de Domino dimidiam virgatam terre vocatam Marsch' lond. Reddendo inde ad festum sancti thome apostoli .ix. d. Ad festum Palmarum .ix. d. ⁽⁵⁾ Ad festum Petri et Pauli .x. d. ob. Et de

quadam pastura apud Kenefeld .viii. d. Et ad Nativitatem beate Marie .vij. d. ob. Et ad festum sancti Michaelis .vij. d. ob. q. Et debet omnia alia seruicia Medietatis vt quedam virgata terre. Et debet sectam. Curie.

(V12) //Iohannes filius henrici Willelmus Morel Willelmus ate Fen. Nicholaus Bannke capellanus Iohannes Gerard Rogerus Wytyng' . Robertus Hert' Iohannes ate Hille Iohannes Pruet Walterus Nocte Iohannes de Butetourte Robertus Clericus. Willelmus de Basingh' Walterus faber. Iohannes filius Thome Saher' . Nicholaus ad pontem. Thomas ate Slade tenent vnam virgatam terre. Reddendo inde ad festum sancti Thome apostoli .ij. s. Ad festum Palmarum .ij. s. Ad festum Petri et Pauli .iij. s. v. d. Ad Nativitatem beate Marie .xv. d. Et ad festum sancti Michaelis .ij. s. ob. Et debent in omnibus aliis seruiciis et consuetudinibus sicut dictus Ricardus de Bonyton' pro tanta terra. Et debent sectam Curie.

Dimidie virgate.*

(DV1) // ① Thomas filius Saher' de Bredeforde tenet de Domino dimidiam virgatam terre Reddendo inde ad festum sancti Thome apostoli .vij. d. ob. Ad festum Palmarum .vij. d. ob. Ad festum Apostolorum Petri et Pauli .x. d. ob. Ad Nativitatem beate Marie .vij. d. ob. Et ad festum sancti Michaelis .vij. d. ob. q. ② Et debet cariare fima domini extra Manerium cum vna carecta sua in prima septimana post festum sancti Michaelis si fimum fuerit per vnum diem a mane vsque ad Meridiem. Et allocatur pro cariagio .j. opus. < Lxj-v. / 81-v. > ③ Et debet arrare ad semen frumenti vnam acram et dimidiam Rodam ad certum Locum super terram domini. Et ad seminem auene vnam acram et dimidiam Rodam et seminabit et herciabit dictam terram seminatam de auena. cum hercia et equo suo proprio. Et queret semen ad granarium domini cum equo et sacco propriis. ④ Et debet arrare post Pentecosten vnam Rodam et dimidiam in quocumque campo dominus voluerit warectare in suis dominicis ⑤ et debet metere in autumpno ligare et cariare ad grangium domini vnam acram et tres Rodas et dimidiam Rodam de frumento et tantum de auena. ⑥ Et debet qualibet septimana per annum vnum opus excepta illa septimana proxima post festum sancti Michaelis qua cariauerit fima et duabus septimanis in yeme quando arrabit ad seminem frumenti et tribus septimanis ad Natale et duabus septimanis quando arrabit ad auenam et duabus septimanis ad Pascha et vna septimana ad Pentecosten. et vna septimana quando warectabit. Et .iij. septimanis quando falcabit prata et Leuauerit et cariauerit fenum in grangium domini. Et exceptes ⁽⁶⁾ .ix. septimanis in autumpno pro messione et cariagio bladi. Et pro qualibet Curia tenta debet esse quietus de vna septimana excepto visus Franciplegii. ⑦ Et debet falcare .xij. acras prati domini et dimidiam Leuare et cariare fenum domini ad Manerium simul cum aliis verdlyngg'. et habebunt ⁽⁷⁾ vnum hurtardum vel .xij. d. et .vj. bussellos Mixtilonis ex consuetudine et vnum caseum Daerie domini post meliorem tempore quo falcauerint et tantum de Sale quantum poterit reponi super formulam Casei Et debet sectam Curie.

(DV2) //Elias de Westhei. et Robertus Gerard de Branketre et heredes Petri de Goldyngham tenent de domino dimidiam virgatam terre Reddendo inde ad festum sancti Thome apostoli .vij. d. ob. ad festum Palmarum .vij. d. ob. Ad festum apostolorum Petri et Pauli .x. d. ob. Ad Natiuitatem ⁽⁸⁾ beate Marie .vij. d. ob. Et ad festum sancti Michaelis .vij. d. ob. q. Et debet in omnibus aliis seruiciis et consuetudinibus sicut dimidia virgata Thome filii Saher'. Et debet sectam Curie.

(DV3) //Ricardus Le Moy Iohannes de Chilleham Galfridus Wisman Elias de Westhei Nicholaus de Westhei Heredes Petri de Goldyngham Iohannes Clemenc' Iohannes Rolf' Iohannes de Thackstede

Mar. 2013

Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

Nicholaus Capellanus Thomas Le Hirde tenent de domino dimidiam virgatam vocatam Ruterleslond. Reddendo inde ad festum sancti Thome apostoli .vij. d. ob. Ad festum Palmarum .vij. d. ob. Ad festum Petri et Pauli .x. d. ob. Ad Nativitatem beate Marie .vij. d. ob. Et ad festum sancti Michaelis .vij. d. ob. q. Et debet in omnibus aliis seruiciis et consuetudinibus sicut dimidia virgata predicti thome Saher' Et debet sectam Curie.

(DV4) //Iohannes de bethundenhee et Iohannes filius Rogeri tenent de domino dimidiam virgatam terre. Reddendo inde per annum ad festum sancti Thome apostoli .xj. d. q. Ad festum Palmarum .xj. d. q. Ad festum Petri et Pauli .xij. d. ob. q. Ad Nativitatem beate Marie .xj. d. q. Et ad festum sancti Michaelis .ij. d. ob. q. Et debet in omnibus aliis seruiciis sicut Thomas filius Saher'. Et Sectam Curie.

(DV5) //Magister Willelmus ate Fen tenet de Domino dimidiam virgatam terre que vocatur Randolueslond Reddendo inde Ad festum sancti Thome apostoli .vij. d. ob. Ad festum Palmarum .vij. d. ob. Ad festum apostolorum Petri et Pauli .vij. d. ob. q. Et pro terra Le Heyward ad idem festum .v. d. Ad Nativitatem beate Marie .vij. d. ob. Et ad festum sancti Michaelis .vij. d. ob. q. Et debet in omnibus aliis seruiciis et consuetudinibus sicut predictus Thomas filius Saher'. Et Sectam Curie.

(DV6) //Walterus filius Roberti tenet de Domino dimidiam virgatam terre vocatam EstchinesLond Reddendo inde per annum Ad festum sancti Thome apostoli .vij. d. ob. Ad festum Palmarum .vij. d. ob. Ad festum apostolorum Petri et Pauli .x. d. ob. Ad Nativitatem beate Marie .vij. d. ob. Et ad festum sancti Michaelis .vij. d. ob. q. Et debet in omnibus aliis sicut predictum est. Et Sectam Curie.

(DV7) //Willelmus de Basingham tenet ad terminum vite sue de Hereditate Willelmi ate Fen dimidiam virgatam terre quam Dominus Iohannes de Bokkyng' solebat tenere Reddendo inde ad festum sancti Thome apostoli .ij. s. viij. d. Ad festum Palmarum .ij. s. viij. d. Ad festum apostolorum Petri et Pauli .ij. s. viij. d. Ad festum sancti Michaelis .ij. s. viij. d. pro omnibus seruiciis. Et debet sectam Curie.

< Lxij-r. / 82-r. >

(DV8) //Willelmus Morel tenet de Domino dimidiam virgatam terre vocatam Sladelond Reddendo inde ad festum sancti Thome apostoli .vij. d. ob. Ad festum Palmarum .vij. d. ob. Ad festum apostolorum Petri et Pauli .x. d. ob. Ad festum beate Marie .vij. d. ob. Et ad festum sancti Michaelis .vij. d. ob. q. Et debet in omnibus aliis seruiciis sicut dictus Thomas filius Saher'. Et debet sectam Curie.

(DV9) //Walterus Le Peyntour tenet de Domino tria quarteria vnus virgate terre. vocate. Peyntourlond'. Reddendo inde per annum ad festum sancti Thome apostoli .xj. d. q. Ad festum Pa(marum .xj. d. q. Ad festum Petri et Pauli .ij. s. .vij. d. q. Ad Nativitatem beate Marie .xj. d. q. Ad festum sancti Michaelis .xj. d. ob. q. Et debet omnia seruicia vt predictus thomas filius Saher' Et sectam Curie.

(DV10) //Iohannes aysscheford' et Robertus Godyn tenent de Domino tria quarta vnus virgate terre vocate Aysschfordlonde Reddendo inde ad festum sancti Thome apostoli .xj. d. q. Ad festum Palmarum .xj. d. q. Ad festum Petri et Pauli .xv. d. ob. q. Ad Nativitatem beate Marie .xj. d. q. Et ad festum sancti Michaelis .xj. d. ob. q. Et debet in omnibus aliis sicut dictum de thoma Saher'. Et debet sectam Curie.

(DV11) //Reynerus vicarius de Gosefend et Ricardus Le Hirde. Iacobus Le Hirde et Iordanus frater eiusdem Reyneri vicarii tenent de Domino tria quarta vnus virgate terre vocate Haliwellelond' Reddendo inde per annum ad festum sancti Thome apostoli .xj. d. q. Ad festum Palmarum .xj. d. q. Ad festum Petri et Pauli .xv. d. ob. q. Ad Nativitatem beate Marie .xj. d. q. Et ad festum sancti Michaelis .xj. d. ob. q. Et debet omnia alia seruicia vt predictus Thomas filius Saher'. Et sectam Curie.

(DV12) //Willelmus Morel *et* Matilda de Gosefend tenent de Domino vnum quartum vnius virgate terre quam thomas Le Clerk' solebat tenere. Reddendo inde per annum ad festum sancti thome apostoli .iij. d. ob. q. Ad festum Palmarum .iij. d. ob. q. Ad festum Petri^a et Pauli .iiij. d. ob. q. Ad Nativitatem beate marie .iij. d. ob. q. Et ad festum sancti Michaelis .x. d. ob. q. Et debet in omnibus aliis seruiciis quartam partem seruicorum (sic) vnius virgate terre. Et sectam Curie.

(DV13) //Egidius Le Deyhere tenet de Domino dimidiam virgatam terre vocatam Meistergodefreieslond'. Reddendo inde ad festum apostolorum Petri^a et Pauli .iij. s. pro omnibus seruiciis preter sectam Curie falcacionem prati et Barlisiluer.

Forlond' .*

(F1) ① Galfridus Wysman Stephanus Spice Iohannes de Chileham. Nicholaus Le Taliour⁽⁹⁾ *et* Adam Freresman tenent de Domino vnum forland' vocatum Wismannesforlond' Reddendo inde ad festum sancti Thome apostoli .ij. d. Ad festum Palmarum .ij. d. Ad festum apostolorum Petri^a et pauli .ij. s. ij. d. Ad festum sancti Michaelis .ij. d. Et ad Natale domini .ij. Gallinas de Redditu. ② Et debet inuenire vnum hominem a mane usque ad Meridiem in proxima septimana post festum sancti Michaelis ad fum'⁽¹⁰⁾ domini per vnum diem ad caretas fimos in Manerio domini implendas ③ [et] debet eciam herciare ad auenas .iiij. acras terre domini. ④ Et debet inuenire vnum hominem ad fenum domini in prato post falcacionem spargendum. Et debet inuenire vnum hominem cum vno Rastro ad fenum colligendum et vnum hominem ad fenum in grangio domini tassandum. ⑤ Et debet metere Ligare adunare .iij. rodas siliginis. ⑥ Et debet metere vnam acram *et* .iij. Rodas *et* dimidiam Rodam. frumenti *et* .ij. acras auene preter dimidiam Rodam *et* Ligare adunare *et* ad grangium domini cariare. ⑦ Et debet qualibet septimana per annum .j. opus excepta illa septimana qua debet auxiliare ad fimum cariendum. Et exceptis .iij. septimanis ad Natale *et* a Natale toto tempore vsque ad Purificationem beate Marie pro herciatura auene. Et exceptis .iij. septimanis pro feno spargendo colligendo *et* tassando. Et a festo sancti Petri^a advincula. vsque ad festum sancti Michaelis pro messione frumenti *et* auene vt predictum est. Et exceptis .ij. septimanis ad Pascha vna septimana ad Pentecosten Et pro qualibet Curia tenta debet esse quietus de illa septimana quam tenet excepto visus franciplegii. ⑧ Et debet esse Messor ad festum *et* amerciamenta domini colligenda in Manerio. Et alias execuciones *et* precepta facienda in Manerio predicto Et faciet sectam Curie.

< Lxij-v. / 82-v. >

(F2) //Iohannes yue *et* Willelmus de Gosefend Hunfridus de Waledene tenent de Domino quoddam tenementum vocatum Sulesforland. Reddendo inde ad festum sancti Thome apostoli .j. d. ob. Ad festum Palmarum .j. d. ob. Ad festum Apostolorum Petri^a et Pauli .viij. d. Ad Nativitatem beate Marie .j. d. ob. Et ad festum sancti Michaelis .vij. d. Et ad Natale domini .ij. gallinas. Et debet omnia alia seruicia sicut WismannesforLand. Et debet sectam Curie.

(F3) //Cristiana⁽¹¹⁾ *et* Clemecia filie *et* heredes Petri^a de Goldingham tenent quoddam tenementum vocatum Cokeston Reddendo inde ad festum sancti Thome apostoli .iiij. d. Ad festum Palmarum .iij. d. Ad festum Petri^a et Pauli .xxj. d. Ad Nativitatem beate Marie .iij. d. Et ad Natale domini .ij. gallinas Et debet omnia alia seruicia sicut Wismanneslond. Et debet sectam Curie.

(F4) //Matheus Le Draper Walterus ate Stable Adam Robyn Thomas Le Draper. Magister Iohannes de Branketr'. Henricus Otwy. Willelmus Pannild. Alexander Louel *et* Rogerus de Nailingerst tenent

Mar. 2013

Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

de *Domino quiddam* forlond' *vocatum* PrudeforLond *Reddendo* inde *per annum* ad *festum Natalis domini* .ij. gallinas. Et *omnia alia seruicia* et *consuetudines* sicut Wismannesforlond' *preter redditum assisum* qui *non soluitur* hic *quia* alias *soluitur* in *Redditu* Simonis Le Willed in *virgata terre sed faciet sectam Curie*.

(F5) //Ricardus de Bonyton' Walterus ate Strete et Willelmus Le Clerk' tenent de *Domino* Panelesforlond *Reddendo* ad *festum Natalis domini* .ij. gallinas Et *omnia alia seruicia* sicut Wismannesforlond. *preter redditum assisum* qui *allocatur* et *soluitur* in *redditu* Ricardi de Bonyton' in *virgata terre sue*. Et *debet sectam Curie*.

(F6) //Edmundus Le Cuppere et Robertus filius et heres Iohannis Bone tenent de *Domino* Prillesforlond. vnde Edmundus Le Cuppere tenet tres *partes* eiusdem forlond et Robertus *quartam partem*. *Reddendo* inde *per annum* Ad *festum apostolorum Petri et Pauli* .ij. s. xj. d. q. Et ad *Natale domini* .ij. gallinas. Et *omnia alia seruicia* vt Galfridus Wisman. Et *debet sectam Curie*.

(F7) // ① Willelmus de Basingham tenet de *Domino* duos forlondes et *dimidium* quarum vna vocatur Clementislond. *alia* forLond vocatur GoldeshalueforLond. Et alia forlond vocatur Malyn atte Welde *Reddendo* inde *per annum* Ad *festum Apostolorum Petri et Pauli* .iiij. s. vj. d. ob. Et debent ad *Natale domini* .vj. gallinas. ② Et *debet omnia alia seruicia* pro qualibet forlond integre sicut Galfridus Wisman ③Et *pro dimidia* forlond *faciet omnia seruicia* pro quantitate sua *preter herciatura* .ij. *acrarum* que *relaxatur* ④Et *faciet sectam Curie*.

(F8) //Walterus filius Roberti tenet vnum forlond et *dimidium* forlond quod quondam fuit Le Heywardesforlond *Reddendo* inde ad *festum Apostolorum Petri et Pauli* .xx. d. ob. Et pro Ricardo de Bonyton' ad idem *festum* .iiij. d. ob.

(F9) //Wymarka de Goldingham tenet de *Domino* terram vocatam Le Smytheslond. *Reddendo* inde ad *festum sancti Thome apostoli* .vj. d. Ad *festum Palmarum* .vj. d. Ad Pascha .ij. d. Et ad *festum sancti Michaelis* .vj. d. Et *debet* .j. *vomerem* ad *festum sancti Michaelis*. Et *sectam Curie*.

(F10) // ① Robertus Prille tenet de *domino* vnum forlond quod Nichol (sic) Roberdessone aliquando tenuit. *Reddendo* inde ad *festum Apostolorum Petri et Pauli* .ix. d. Et ad *festum Natalis domini* .ij. gallinas. ② Et *debet* *facere* a festo *sancti Michaelis* in *omnibus* sicut vna forlond Et a Pentecoste vsque ad *festum sancti Michaelis* in *omnibus* sicut vna Cotlond. ③ Et *debet sectam Curie*.

Dimidia Forlond.*

(DF1) ①Nicholaus de Westhey tenet de *Domino* *dimidiam* forlond' *vocatam* Westheyeslond *Reddendo* inde *per annum* ad *festum Palmarum* .iiij. d. ob. Ad *festum Apostolorum Petri et Pauli* .iiij. d. *pro terra Geme*' Item ad eundem *terminum* pro Le forland .xj. d. Et ad *festum sancti Michaelis* [blank] ②Et *debet* in *omnibus* sicut vna forlond *preter hoc quod non herciabit nisi* .ij. *acras* auene. ③ Et *sectam Curie*.

(DF2) //Rogerus Le Pottere tenet de *Domino* *dimidiam* forlond *vocatam* Potteresforlond. *Reddendo* inde *per annum* Ad *festum apostolorum Petri et Pauli* .vij. d. ob. Et *debet* in *omnibus aliis seruiciis* sicut et Nicholaus de Westhey *pro* Westheyeslond.

< Lxiiij-r. / 83-r. >

(DF3) //Ricardus Gerard tenet de *Domino* *dimidiam* forland' *vocatam* kokereleslond. *Reddendo* inde *per annum* ad *quatuor terminos predictos* ad quemlibet *terminum* .j. d. ob. Et *faciet* in *omnibus aliis*

seruiciis vt predictus Nicholaus de Westhey. Et preter hoc debet ad festum Apostolorum Petri et Pauli de Redditu .ij. s. vj. d.

(DF4) //Robertus Prille et Iohannes Biddoy tenent *dimidiam* forlond *vocatam* Coppedefeld. Reddendo inde *per annum* in *omnibus* sicut Nicholaus de Westhey et *preter hoc quod herciabit .iij. acras terre auene.*

(DF5) //Iohannes de Ritlingg' tenet de Domino *dimidiam* forland. *vocatam* Pluton ⁽¹²⁾. Et *debet in omnibus* sicut Nicholaus de Westhay.

Cotlond' .*

(C1) // ① Robertus Bone tenet de Domino quiddam Cotlond. Reddendo inde *per annum* Ad festum Apostolorum Petri et Pauli .vj. d. Et *pro aliis tenementis tentis* ⁽¹³⁾ de domino debet ad festum sancti Thome apostoli .vij. d. ob. *per annum excepta terra quam tenet dil Weldelond.* Et ad festum apostolorum Petri et Pauli *pro dictis tenementis .xxj. d. q.* Et ad festum sancti Michaelis .xxij. d. ob. ② Et debet spargere fimos in Manerio post festum sancti Michaelis cum aliis tenentibus dil Cotlond. ③ Et debet operare a festo Pentecostes vsque ad Gulam Augusti qualibet septimana .j. opus precium .ob. *preter tres septimanas pro quibus debet metere in Autumpno. tres Rodas siliginis et Ligabit.* ④ Operabit eciam a festo sancti Petri aduincula qualibet septimana vnam Rodam bladi debet eciam metere simul cum aliis Cotlondes omnes Pise domini in communi. ⑤ Et auxiliabit ad fenum in prato domini Leuandum. ⑥ Et si forte contingat quod aliquis captus fuerit infra Libertatem domini pro Latrocinio vel feloniam et fuerit incarceratus ad Molendinum domini vel alibi predictus Robertus simul cum aliis tenentibus dil Cotmen ipsum salue et secure die ac nocte suis propriis sumptibus conseruabunt quousque per iudicium diliberetur vel ad alium carcerem detrudetur. ⑦ Et faciet sectam Curie.

(C2) //Stephanus Wokeday tenet de Domino duas Cotlondes. Et debet in omnibus dupliciter ⁽¹⁴⁾ sicut Robertus Bone.

(C3) //Nicholaus filius Petri Le Cuppere tenet de Domino .ij. Cotlond'. Et debet in omnibus sicut Stephanus Wokeday. Et *preter hoc .ij. vomeres ad festum sancti Michaelis.*

(C4) //Matilda Prille tenet de Domino vnum Cotland. Et debet in omnibus sicut Robertus Bone.

(C5) //Prior ecclesie Christi Cant' et Robertus Thom' tenent .ij. Cotlond'. Et debent in omnibus sicut Stephanus Wokeday. Et debent .iij. vomeres ad festum sancti Michaelis et vocantur Rughemere.

(C6) //Nicholaus Bigelyn tenet vnum Cotland'. Et debet in omnibus sicut Robertus Bone.

(C7) //Iohannes fukeressone tenet vnum Cotland'. Et debet in omnibus sicut Robertus Bone.

(C8-1) //Robertus Prille tenet .ij. Cotland'. Et debet in omnibus sicut Robertus Bone.

(C8-2) // ① Item Robertus Prille tenet de Domino quandam terram *vocatam* Drengeslond. ② Et debet facere a festo sancti Michaelis vsque ad Pentecosten in omnibus seruiciis sicut vna forlond. ③ Et a Pentecoste vsque ad festum sancti Michaelis in omnibus sicut vna Cotlond'.

Tenentes dil WeldeLonde.*

(T1) //Iohannes Biddoy tenet de Domino .viij. acras terre. dil Weldelonde *adquisitas* de Henrico de Bokkyng' Et de Waltero Le diakne .v. acras terre. Reddendo inde *per annum* ad quatuor terminos .iiij. s. iiij. d. videlicet ad quemlibet terminum .xiiij. d.

(T2) //Rogerus de Naylingherst tenet .xxij. acras terre. Reddendo inde *per annum* .vij. s. iiij. d. ad

Mar. 2013 Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

predictos terminos.

(T3) // *Willelmus* de Basingham tenet .ix. acras terre quod Petrus Bokk' solebat tenere. Reddendo inde .iiij. s. ad *predictos terminos.*

(T4) // *Edmundus* Le Cuppere tenet .xiiij. acras terre. Reddendo inde per annum .iiij. s. .iiij. d. ad *predictos terminos.*

(T5) // *Robertus* Russel tenet de Domino .vj. acras. Reddendo inde per annum ad *predictos terminos* .ij. s.

(T6) // *Edmundus* Le Cuppere tenet de domino .x. acras terre de terra Turgis et .xiiij. acras quod *Nicholaus filius Radlufi* Prille aliquando tenuit. Reddendo inde per annum .viiij. s. ad *terminos predictos.*

< Lxiiij-v. / 83-v. >

(T7) // *Walterus* Faber tenet de Domino .iiij. acras terre de terra quondam Roberti Prille et .j. acram adquisitam de Henrico filio Henrici Et .vj. acras terre adquisitas de Albredo Fabro de terra Bole. Et .iiij. acras terre adquisitas de Waltero tixtore. Reddendo inde per annum .iiij. s. .iiij. d. ad *predictos terminos.* Et pro vno Mesuagio adquisito de Henrico Chaunterel ad *terminos predictos* .xvj. d.

(T8) // *Iohannes* Le Knyth' ⁽¹⁵⁾ tenet vnum Cotagium ex opposito Mesuagii sui. Reddendo inde ad *predictos terminos* .iiij. d.

(T9) // *Robertus filius Iohannis* Bone tenet de terra quondam Walteri Bone .xxiiij. acras Et de terra Ade filii Stephani .v. acras Et de terra Elye Bone .xij. acras. Et de terra Thome filii Henrici de Bredeford .x. acras Et de terra Henrici Le Peyntour .j. acram Et de terra Walteri Buck' .j. acram Reddendo inde per annum ad *predictos terminos* .xvj. s. .iiij. d.

(T10) // Heredes Walteri ate strete tenent .iiij. acras terre Reddendo inde per annum ad *predictos terminos* .xij. d.

(T11) // *Walterus* Faber tenet vnam acram terre Reddendo inde per annum ad *predictos terminos* .iiij. d.

(T12) // *Nicholaus filius Petri* Le Cuppere tenet .iiij. acras terre Reddendo per annum ad *predictos terminos* .xvj. d.

(T13) // *Walterus filius Roberti* tenet .viiij. acras terre Reddendo inde ad *terminos predictos* .ij. s. .viiij. d.

(T14) // *Iohannes* de Glasne tenet .iiij. acras terre Reddendo inde per annum .xvj. d.

(T15) // *Ricardus* Gerard tenet .j. acram et dimidiam terre Reddendo inde per annum .vj. d.

(T16) *Henricus* Pruet tenet .iiij. acras terre Reddendo inde per annum .xvj. d.

//Summa .Lx. s. ix. d.

//**Nous Redditus pertinens ad Manerium de adquisicione Custodum et Balliuorum.**

(NR1) // *Iohannes* de Chileham pro quadam terra dil Woderede eidem dimissa per Custodem ad tenendum pro voluntate domini Reddit inde per annum ad quatuor terminos vsuales .iiij. s. videlicet ad quemlibet terminum .xij. d.

(NR2) // *Willelmus* Le Parker tenet de Domino quatuor acras terre in Le Woderede Reddendo inde per annum ad *predictos terminos* .ij. s.

(NR3) // *Rogerus Conwytyng* tenet de Domino quandam inclusam Reddendo inde per annum ad *predictos terminos* .xij. d.

(NR4) //Iohannes de Thackstede *pro* esiamiento cuiusdam vie apud Rokesfeld *habendo super terram domini* .viii. d. ad *predictos terminos per annum*.

(NR5) //Rogerus Le Millere *pro* vno Cotagio ad eosdem *terminos* .xij. d.

(NR6) //Beatrix Baunkes *pro* vno Cotagio ad eosdem *terminos* .xij. d.

(NR7) //Rogerus Godyn tenet de *Domino* quandam *terram* vocatam Potteresaker Iacentem iuxta portam eiusdem Rogeri quam solebat tenere de Iohanne de Chileham qui quidam Iohannes dedit inde Redditum Priori et Conuentui ecclesie *Christi* Cant' Reddendo inde ad festum sancti Michaelis .ij. d.

(NR8) //Walterus ate Pek' recepit a *Domino* Waltero de Norwyco tunc Custode videlicet in festo sancti Michaelis Anno regni regis Edwardi filii Regis Henrici .xxxij. xix. acras terre Iacentes in Le Woderede ad *terminum* .xxij. annorum Reddendo inde annuatim ad quatuor *terminos* principales .xij. s. viii. d. Et vnde quoddam scriptum indentatum est inter *predictos* (sic) *dominum* Walterum Custodem et *predictum* Walterum Le Pek' qui sigilla sua eidem scripto alternatim apposuerunt.

(NR9) //Petrus Gemeneth' debet annuatim *domino* ad Pascha .j. Caponem de *perquisito domini* Simonis de *sancto* Paulo.

(NR10) //Elyas Le trottere dat *domino* de incremento Redditus *pro* terra sua quam tenet de tenemento Henrici filii Henrici preter redditum suum quam debet *pro* quantitate tenementi sui per annum .j. d. de acquisitione Iohannis Le Doo.

(NR11) //Rogerus Conwytyng' dat *domino* de incremento redditus eiusdem tenementi per annum .ij. d. preter Redditum suum de acquisitione eiusdem Iohannis.

//Summa .xxij. s. ix. d. j. Capon' (sic)

[L]ibertates.* Furte. Pilloria. Castigatoria.*

//Et sciendum quod Dominus Prior est Capitalis Dominus Manerii de Bokkyng' et Habet ibidem Libertatem suam de Infangnethief et Vtfangnethief cum Manu opere capt' videlicet Bacberinde Sacberinde Handhalbinde et debet facere iudicium eorundem in Curia sua per Ballivos suos si se in eadem ponere voluerint sin autem mittantur ad Gaolam Colecestr' Et sciendum quod furce iudiciales eiusdem Libertatis debent stare apud Le Coppedegonge Pillorium eciam debet stare extra partas Manerii supra montem et ibi stat cum ⁽¹⁶⁾ castigatore eidem pillorio attachiato. Trebuchetum eum stat et debet stare super riparium iuxta pontem de Bokkyng' .

< Lxiiiij-r. / 84-r. >

Warennia.*

//Et sciendum quod Warennum est in Manerio et pertinet ad Manerium.

Herietta.*

//Notandum eciam quod si quis tenencium domini in isto Manerio obierit Dominus habebit Meliorem bestiam eius pro herietto si bestiam habuerit sin autem nichil habebit.

Releuia.*

//Memorandum eciam quod filius tenentis primogenitus debet habere totam hereditatem antecessoris sui statim post mortem eiusdem antecessoris cuiuscumque ⁽¹⁷⁾ etatis fuerit et debet dare de relevio tantum quantum soluit de Redditu per annum Nec aliquis habebit custodiam nec nutrimentum predicti heredis nec terre sue nisi ad voluntatem ipsius heredis.

Mar. 2013 Bocking (Essex) における14世紀初頭の慣習保有農民 (Custumarii)

注

- 1) Register B では xxiiij である。
- 2) Register B では v である。
- 3) Register B では Bonyntone である。
- 4) おそらくは fimum の誤記であろう。Register B では fimum である。
- 5) Register B では x である。
- 6) Register B では exceptis である。
- 7) Register B では habebit である。
- 8) Register B では Natiuitatem である。
- 9) Register B では Tailleur' である。
- 10) おそらくは fimum の誤記であろう。Register B では fimum である。
- 11) Register B では Cristina である。
- 12) Register B では Perluton である。
- 13) おそらくは tenentis の誤記であろう。Register B でも tentis になっている。
- 14) Register B では duplicationem である。
- 15) Register B では Knyght である。
- 16) Register B では in である。
- 17) Register B では cuiusdem である。

(2012年12月 4 日掲載決定)